ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究１

～『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本蒐集と校訂翻訳～

青　木　　健

目次

1. ゾロアスター教史におけるズルヴァーン主義の位置付け
1-1. ゾロアスター教研究の文献資料の分布
1-2. ゾロアスター教ズルヴァーン主義に関する内部資料
1-3. ゾロアスター教ズルヴァーン主義に関する外部資料
1-4. ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究の課題と本稿の目的

2. 『ウラマー・イェ・イスラーム』のバージョン
2-1. 『ウラマー・イェ・イスラーム』
2-2. 『別版ウラマー・イェ・イスラーム』
2-3. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』
2-4. 『ダストゥール・バルズー教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』
2-5. 4つのバージョンのコンコーダンス
2-6. 4つのバージョンの前後関係
2-7. 正式な題名

3. 『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本・刊本・翻訳・研究
3-1. 既存の写本

3-1-1. 蒐集方式の伝承
3-1-2. 編集方式の伝承
3-2. 刊本
3-3. 翻訳
3-4. 先行研究

4. 『ウラマー・イェ・イスラーム』の新出写本と散逸写本
4-1. イラン・イスラーム共和国とインド連邦共和国での写本調査
4-1-1. イラン・イスラーム共和国議会図書館（テヘラン）
4-1-2. K. R. カーマ東洋研究所（ムンバイ）
4-1-3. ムンバイ大学ラージャバイ時計台図書館（ムンバイ）
4-1-4. メヘルジー・ラーナー図書館（ナヴサーリー）
4-1-5. サーラール・ジャング図書館（ハイデラバード）
4-2. イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 87947 Codex
4-2-1. コロフォン
4-2-2. 蔵書印とグジャラート文字数字
4-2-3. マーフヤール・ナオロージー・クータル神官と彼の蔵書
4-2-4. Majles 87947 Codex は行方不明の Codex MU か？
4-3. イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 86908 Codex
4-3-1. コロフォン
4-3-2. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の収録
4-3-3. Majles 86908 Codex は行方不明の Codex SH か？
4-3-4. Majles 86908 Codex は Codex SH に対してどのような関係にあるか？
4-4. サーラール・ジャング図書館所蔵 Persian 3493 Codex
4-4-1. コロフォン
4-4-2. 構成

4-5. 2010 年段階での『ウラマー・イェ・イスラーム』現存写本のまとめ

5. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の校訂と翻訳と思想

5-1. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の校訂

5-2. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の翻訳

5-3. 『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の思想

5-3-1. 全体構造

5-3-2. 時間による宇宙創造

5-3-3. オフルマズドとアフレマンの闘争

5-3-4. 人類史

5-3-5. 終末論

参考文献表

謝辞

図表 1：ゾロアスター教の文献資料の分布とその時代

図表 2：『ウラマー・イェ・イスラーム』の 4 つのバージョンのコンコーダンス

図表 3：『ウラマー・イェ・イスラーム』の 4 つのバージョンの前後関係に関する仮説

図表 4：従来の研究による写本系統図

図表 5：刊本系統図

図表 6：翻訳系統図

図表 7：2010 年段階での新出写本と散逸写本のまとめ

図表 8：Majles 87947 Codex 所収の各リサーラのコロフォンの整理

図表 9：Majles 86908 Codex 所収の各リサーラのコロフォンの整理

図表 10：『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の書写経路
図表 11：Persian 3493 Codex の全体の構成
図表 12：2010 年段階での『ウラマー・イェ・イスラーム』写本系統図
図表 13：『ウラマー・イェ・イスラーム』の構造と成立過程
図表 14：時間による宇宙創造
図表 15：オフルマズドとアフレマンの闘争
図表 16：人類史
図表 17：終末論
図表 18：ゾロアスター教ズルヴァーン主義，マーニー教，二元論的ゾロアスター教の比較

1. ゾロアスター教史におけるズルヴァーン主義の位置付け

1-1. ゾロアスター教研究の文献資料の分布：ゾロアスター教は 3000 年以上の歴史を有する宗教だが，文献資料は時代的に偏って分布しており，連続した発展の軌跡を辿れる訳ではない。それらの時代とは，第 1 に，紀元前 1000 年以前に属する[(1)]教祖ザラスシュトラ・スピターマの前後数世紀間をカバーする原始ゾロアスター教の時代，第 2 に，サーサーン王朝前期（3 ～ 5 世紀）のゾロアスター教ズルヴァーン主義の時代，そして第 3 に，サーサーン王朝後期から崩壊後（6 ～ 10 世紀）の二元論的ゾロアスター教の時代である。それぞれを，①アヴェスター語による『アヴェスター』，②パフラヴィー語，シリア語，アルメニア語，アラビア語などの外部資料とペルシア語内部資料，③パフラヴィー語文献がカバーしている。

この中で，文献資料が集中している 3 つの時代のゾロアスター教が正確に捉えられているかと言えばそうではない。第 1 の時代は筆者の専門から外れるの

図表 1：ゾロアスター教の文献資料の分布とその時代

文献資料がカバーする時代	文献資料	伝承経路
紀元前 1000 年とその前後数世紀間をカバーする原始ゾロアスター教の時代	アヴェスター語による『アヴェスター』	原始教団によって保存され、6 世紀頃に文字化される
3 ～ 5 世紀のゾロアスター教ズルヴァーン主義の時代	パフラヴィー語、シリア語、アルメニア語、アラビア語外部資料と、ペルシア語内部資料	3 ～ 8 世紀の外部資料と 13 世紀に翻訳された内部資料 1 点のみ
6 ～ 10 世紀の二元論的ゾロアスター教の時代	パフラヴィー語の内部文献がかなり豊富	6 ～ 10 世紀にオリジナルが作成される

で，ヴェーダ語・アヴェスター語研究の第一人者である東北大学の後藤敏文（1948 年～）の説明を引用しよう[(2)]。

> ゾロアスター教聖典『アヴェスタ』の研究が一応の安定段階に達していない，または，知見が共有財産となるまでに成熟していない現在の状態では，…（中略）…『アヴェスタ』の原典そのものの理解とその後のゾロアスター教の発展史，教義とを総合的に理解するまでに研究が至っておりません。

即ち，現在では『アヴェスター』，特にザラスシュトラ・スピターマ直伝の「ガーサー」に関して決定的な解釈が出現しておらず，原始ゾロアスター教の思想内容については定説が存在しない。但し，この局面については後藤による「ガーサー」のドイツ語新訳が予告されているから，今後に期待が持てるはずである。

第 3 の時代については，イランの 5 系統，インドの 2 系統の神官家系が書写した写本が，主なものだけで 6 つのコレクションに分かれて現存しており，それらを元にして 19 世紀以来校訂と翻訳が積み重ねられてきた。各刊本における写本の選択，校訂の粗密には差があり，難解なテキストは未だに校訂も翻訳もされていないものの，6 ～ 10 世紀に通用していた最大公約数的なゾロアスター教思想を二元論とする理解にはこと欠かない。

これに対して，本稿が扱うのは第 2 の時代である。この時代は同時代の外部

資料はあるものの，それらが示す思想は6～10世紀の二元論的ゾロアスター教とは著しく乖離している。また，内部資料は1点しかなく，しかもそれは13世紀にパフラヴィー語からペルシア語に翻訳された文献である。信頼するに足る資料が少ないため，その影響力の大きさに比較して，ゾロアスター教ズルヴァーン主義に関する研究は限られているのである。しかし，ゾロアスター教ズルヴァーン主義はサーサーン王朝前期の支配的な宗教であり，これを無視して原始ゾロアスター教と二元論的ゾロアスター教を直接結び付ける訳にはいかない。これが，ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究が必要とされる理由である。

1-2. ゾロアスター教ズルヴァーン主義に関する内部資料：現在までのところ，ゾロアスター教ズルヴァーン主義（以下，ズルヴァーン主義と略）に関する最も包括的な研究は，1955年にオックスフォード大学のロバート・チャールズ・ゼーナー（1913～1974年）によって公刊されたZaehner 1955である。それをベースにした概説書としてZaehner 1961がある。ここでは前者の第2部に収録された「テキスト編」を元にして，ズルヴァーン主義に関する内部資料を概観してみよう。

第1に，『アヴェスター』の中でズルヴァーンが言及されている部分である。但しこれらはズルヴァーン主義として思想が煮詰まった訳ではなく，萌芽的にそのような神格（または抽象的な概念）が出現しているに留まる。

第2に，6～10世紀のパフラヴィー語文献の中で「ズルヴァーン主義的逸文」とされる部分である。ゼーナーによれば，ズルヴァーン主義と二元論的ゾロアスター教の担い手たちは，5～6世紀に激しい党派的な争いを繰り広げた[(3)]。そして，最終的な勝者となった後者が前者の文献を徹底的に抹消しようと試みた。しかし，根絶しきれなかった部分が6～10世紀のパフラヴィー語文献（特に『イラン版ブンダヒシュン』[(4)]と『ザードスプラムの選集』）の中に残っ

ているので，ゼーナー本人が注意深くそれらを抽出したとされる。だが，ゼーナーが独自に設けた基準以外にそれらがズルヴァーン主義の痕跡であると証明する根拠はなく，結果的に彼が思い描いた「ズルヴァーン主義」に合致する記述をパフラヴィー語文献の中から拾い集めた研究となっている。

第３に，13 世紀に作成されたペルシア語文献『ウラマー・イェ・イスラーム』である。本書だけが確実にズルヴァーン主義思想を伝えている内部資料とされる。しかし，この文献には現在まで満足のいく写本蒐集も校訂も行われていない。だが，厳密な資料に基づいてズルヴァーン主義を論じるとしたら，本書が全ての出発点になる筈である。本稿の主題は，本書の写本の蒐集，校訂，翻訳である。

1-3. ゾロアスター教ズルヴァーン主義に関する外部資料：次に外部資料であるが，第１に，以下の４人のキリスト教護教家によるズルヴァーン主義反駁がある。

①アルメニア人，コルブのエズニク（5 世紀）による伝承

②アルメニア人，エリシェー・ヴァルダペト（5 世紀）による伝承

③シリア人，ヨハンナーン・バル・ペンカイェー（7 世紀後半のネストリウス派修道士）による伝承

④シリア人，テオドル・バル・コーナイ（8 世紀のワースィトのネストリウス派主教）による伝承

アルメニア語やシリア語は筆者の専門外である。だがゼーナーの意見によれば，これら４つのズルヴァーン主義反駁は内容が酷似し，しかもそれが上述の『ウラマー・イェ・イスラーム』と重なるので，５つとも５世紀前半のサーサーン王朝宰相ミフル・ナルセフ[(5)]が起草したアルメニア人に対するゾロアスター教改宗勅令に起源があると推定される（Zaehner 1955, pp. 40-47）。原本がこのようにして成立した為に，５世紀のアルメニア人キリスト教徒が先ず情報を得

て，7～8世紀のシリア人キリスト教徒がそれを継承し，13世紀に至ってパフラヴィー語原本が『ウラマー・イェ・イスラーム』としてペルシア語訳されたと考えられている。この想定されるパフラヴィー語原本と4つの外部情報，および現存する『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本の異同については，校訂を示した後で再度立ち返って検討する予定である。

次にイスラーム教徒による文献であるが，最も纏まった記述はアシュアリー派神学者シャフラスターニー（1086～1153年）のアラビア語著作『アル・ミラル・ワ・ン・ニハル』に見いだされる。ゼーナーが主張するようにズルヴァーン主義が6世紀以前に根絶されていたとしたら，12世紀までどうやってズルヴァーン主義の伝承が伝わったのかは不明である。この点は，本稿で『ウラマー・イェ・イスラーム』の新校訂を示した上で，『アル・ミラル・ワ・ン・ニハル』の新校訂（Shahrastānī 1366-1375 AH）とフランス語新訳（Gimaret et Monnot 1986）と対照させつつ解明する予定である。

最後に，ゼーナーは触れていないが，マーニー教文献を取り上げよう。マーニー・ハイイェー（216～277年）がシャーブフル1世（在位240～272年）に献呈するために執筆したパフラヴィー語文献『ドー・ブン・イー・シャーブフラガーン』は，善の最高神をズルヴァーン，悪の最高神をアフレマン，善の第1の戦士をオフルマズドとするなど，この当時のサーサーン王朝の中枢部でズルヴァーン主義が優勢だった状況を垣間見させてくれる。教祖がズルヴァーン主義に影響された教義を案出したので，以後のマーニー教文献の中でズルヴァーン主義的要素が見られるのは当然であった[(6)]。

1-4. ゾロアスター教ズルヴァーン主義研究の課題と本稿の目的：ズルヴァーン主義の資料状況は以上のようである。ここでまず求められるのは，ゼーナーが論拠としていたパフラヴィー語文献からの「ズルヴァーン主義的逸文」に依拠した研究からの脱却と，それに代わって確実な論拠となる『ウラマー・

イェ・イスラーム』の校訂の作成である。これが確立することで，地に足の着いたズルヴァーン主義研究が可能になる。従って，本書の校訂と内容理解の変動は，直ちにズルヴァーン主義理解－そして，ゾロアスター教史全般やマーニー教の成立過程の理解－に波及すると考えられる。

また，それと 5 ～ 8 世紀のアルメニア語，シリア語の反ズルヴァーン主義文献を比較することで，ゼーナーが主張するように「5 ～ 8 世紀の 4 冊の反ズルヴァーン主義文献はミフル・ナルセフが起草した勅令に遡るのか？」「それは『ウラマー・イェ・イスラーム』の原本と同一なのか？」といった一連の問いに答えることが出来る。

更に，『ウラマー・イェ・イスラーム』と『アル・ミラル・ワ・ン・ニハル』の比較によって，13 世紀段階でパフラヴィー語原本をペルシア語訳した人物と 12 世紀のシャフラスターニーの情報を集約できる。これによって，何故イスラーム時代にまでズルヴァーン主義の情報が生きて伝承されていたのかの問題を推測する基盤が出来る。

このように着実な文献学的手続きを踏んで初めて，サーサーン王朝初期に全盛期を迎え，マーニー教，仏教[(7)]など東西の宗教思想に広く影響を与えたとされるズルヴァーン主義に関する実証的な研究が可能になる。本稿は，以上のような課題に応えようとするものである。

2. 『ウラマー・イェ・イスラーム』の 4 つのバージョン

『ウラマー・イェ・イスラーム』（UI と略）を概説するに当たり，本書のバージョンの問題から取り上げよう。本稿の研究以前には，本書には 2 種類のバージョンが知られていた。これらは，慣例によって『ウラマー・イェ・イスラーム（*'Ulamā-ye Islām*）』（UI-1 と略），『別版ウラマー・イェ・イスラーム（*'Ulamā-ye Islām be-dīgar Ravesh*）』（UI-2 と略）と名付けられていた。当時

の写本状況から言えば，UIのバージョンがこの2つで尽くされているとする見方にも充分な根拠があった。

しかし，今回見付かった写本に依拠するならば，UIのバージョンとしては，もう2つ，『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』（UI-KBと略）と『ダストゥール・バルズー教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』（UI-DBと略）を独立させる方が良い。以下では，この4つのバージョンを概観しよう。

2-1.『ウラマー・イェ・イスラーム』（UI-1）：このバージョンは，イラン高原とインド西海岸のゾロアスター教徒の間で1478年から1644年までに交わされた8通の『ゾロアスター教教示書』のいずれかに収録されていた。残念ながら，現存のコーデックスは各教示書を一旦分解して主題別に編集し直してしまったので，UI-1が何年に誰が書いた教示書からの引用なのかは分からない。内容的には，若干のズルヴァーン主義的内容を含むものの，大半はゾロアスター教から見たイスラーム神学の批判である。

2-2.『別版ウラマー・イェ・イスラーム』（UI-2）：このバージョンも，上述の8通の『ゾロアスター教教示書』のいずれかに収録されていた。UI-1と同じ理由で，UI-2が何年に誰が書いた教示書からの引用なのかは分からない。内容的には，UI-1と異なり，ズルヴァーン主義的な色彩が強い。

而して，UI-1とUI-2はインド側で各教示書を編纂した際に，その源となったコーデックスに最初からセットで書写された点で，伝承経路では恵まれていた。以後，インドで書写された教義書のコーデックスでUI-1とUI-2が削除されることはなく，19世紀以降はヨーロッパのイラン学の中でズルヴァーン主義の内部資料として注目を集めた。

2-3.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』(UI-KB)：これに対して，UI-KB は，それを収録していた教示書と執筆年代，執筆した人物は明確に分かっている。その教示書とは，ヤズデギルド暦 896 年＝西暦 1526 年に，ヤズド（イラン高原中央部の砂漠都市）の神官ダストゥール・シャフリヤール・アルダシール・イーラジ・ルスタムとギーヴ・イスファンディヤールによって執筆され，グジャラート州カンバーヤトのゾロアスター教徒商人カーメ・ブン・アーサー・カンバーヤティー宛に送付された『カーメ・ボフレ教示書』である（Dhabhar 1932, p. lvi, コロフォン原文だけが pp. 626-7 に引用されている。）

しかし，この教示書の一部分は早くに紛失したので，そこに含まれていた UI-KB は，インドで編集された教義書コーデックスの書写伝統の中では書き洩らされた。UI-KB は後述のコーデックスの中でも，BK 蒐集版自筆本（Unvâlâ 1922, Vol. 1, pp. 10-11），HF 蒐集版自筆本（Unvâlâ 1922, Vol. 1, pp. 14-15, Dhabhar 1932, p. vi），Codex BU 写本（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 39）には見られず，Codex SH にだけ収録されている（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 34）。そして，今までは Codex SH が UI-KB の唯一の資料であり，しかもそれが行方不明だったので，UI-KB の本文は公表されていなかった。

このような経緯から，イラン側で執筆された年代や執筆者などのデータは UI-KB の方が揃っており，UI-1，UI-2，UI-KB を収録していたイラン側の教示書も各 1 通ずつだったにも拘らず，インド側での取り扱いの点で大きな差が生じた。そして，UI-KB の写本は 19 ～ 20 世紀のズルヴァーン主義研究の上で考察の対象から外れていったのである。

2-4.『ダストゥール・バルズー教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』(UI-DB)：『ダストゥール・バルズー教示書』とは，『ゲッセ・イェ・サンジャーン』の著者バフマン・カイコバード神官の甥に当たるバルズー・カーム

ディーン神官が，ダストゥール（最高位のゾロアスター教神官）に就任後，ヤズデギルド暦 1015 年（＝西暦 1645 年）にヤズドへ質問書を送り，ヤズデギルド暦 1019 年（＝西暦 1649 年）にヤズドの神官メヘルバーン・ダストゥールとバフラーム・メヘルバーン・ダストゥールから回答を得たものである（Dhabhar 1932, p. lxii）。つまり，UI-KB 執筆から 123 年後に作成された教示書である。

UI-DB はこの教示書に含まれており，早くからインド側での編集版に収録されていた。この意味では UI-KB のような運命は免れた。しかし，UI-DB は UI-2 の第 7 ～ 20 節に当たるに過ぎず，数人の研究者が存在に気付いていたものの，その内容は重視されなかった。

2-5. 4 つのバージョンのコンコーダンス：UI-KB と UI-DB は，内容的には UI-1 と UI-2 に異質な要素を挿入するか，両者を折衷した構成になっている。この 4 つのバージョンの内容の重複と相違を図示すると図表 2 のコンコーダンスが得られる。

図表 2：『ウラマー・イェ・イスラーム』の 4 つのバージョンのコンコーダンス

UI-1…全 42 節（節分けは筆者による）
UI-2…全 53 節（節分けは Zaehner 1955 による）
UI-KB…UI-2 の第 1 ～ 48 節 + UI-1 の第 24 ～ 29 節 + UI-1 の第 11 節～第 23 節 + UI-2 の第 49 ～ 52 節 = 全 71 節
UI-DB…UI-2 の第 7 ～ 19 節の途中 + 独自の文章 + UI-2 の第 19 節の途中～ 20 節 = 全 13 節

2-6. 4 つのバージョンの前後関係：これまで UI-KB と UI-DB は，それぞれ独立写本が 1 つしか発見されておらず，重要視されてこなかった。しかし，イ

ランで執筆された時点では各バージョン間に価値の優劣はなかったであろうこと，また，今回 UI-KB の写本が新たに 2 点発見されたことによって，このバージョンの価値を新たに検討する余地が生じた。

そして，細かく比較すると，UI-KB の方が外部資料が示すズルヴァーン主義思想により近いこと，UI-1 からイスラームを論じた部分を捨象してズルヴァーン主義的な部分だけを抽出した上で，よりズルヴァーン主義的な UI-2 に接続していることなどから，筆者は UI-KB の成立が他の 3 つに先行し，UI-KB がパフラヴィー語版からペルシア語版が成立した際の原本だったのではないかと仮説的に考えている。

この原本 UI-KB をほぼ継承したのが UI-2 であり，前半部分だけを継承したショーター・バージョンが UI-DB であり，そこからズルヴァーン主義的要素を削除して大幅にイスラーム的な要素を追加し，実質的に別の文献に変質していったのが UI-1 だと思われる。

以上の仮説を図示すると，図表 3 のようになる。

図表 3：『ウラマー・イェ・イスラーム』の 4 つのバージョンの前後関係に関する仮説

従来の説

UI-1 と UI-2 がそれぞれ独立して併存。UI-DB と UI-KB にはほとんど注意が払われず

4 つのバージョンの前後関係に関する筆者の仮説

UI-KB → UI-1（UI-KB を部分的に継承し，イスラームへの反論を大幅に追加。実質的に UI シリーズの中でも別の書物になる）

UI-KB → UI-2（UI-KB を大幅に継承）

UI-KB → UI-DB（UI-KB の前半を継承し，天文学（?）を追加）

2-7. 正式な題名：このことは本書のタイトルからも確認できる。『ウラマー・イェ・イスラーム（علمای اسلام *‘Ulamā-ye Islām*）』という題名は，本書

が「ゾロアスター教の神官」と「イスラームのウラマー」の論争というフィクションの上に成り立っていることから後代に付けられた題名だったようで，実はこれを支持する写本は多くない。別の表記として『平安のウラマーたち（علمای سلام *'Ulamā-ye Salām*）』，『ウラマーとイスラーム（علما و اسلام *'Ulamā wa Islām*）』などが確認され，それぞれを支持する独立写本の比率は，1：2：1である。しかし，19世紀の研究者たちの目に最初にとまった写本が偶々『ウラマー・イェ・イスラーム』のタイトルを冠しており，以後の研究もそれを疑わずにきたので，本稿ではこの文献を仮に『ウラマー・イェ・イスラーム』と呼ぶ。

これに対してUI-2，UI-KB，UI-DBの第1節末尾では，全ての独立写本が一致して，

> この書物の名を『ウラマー・イェ・イスラーム（或るいは上記の別名）』といい，つまり，『始原から終末に至るまでの世界の本質と人間の霊魂に関する解説（چگونگی جهان و روح مردم از ازل تا ابد پیدا کننده）』である。

と説明している。おそらく，パフラヴィー語原本の著者が付けた原題がこれで，13世紀にペルシア語訳した人物（か後のペルシア語書写生）が本書の構造を考慮して『ウラマー・イェ・イスラーム』と仮称したのだと考えられる。ただし，UI-KBから逸脱していったUI-1だけは本文中に正式タイトルへの言及がなく，パフラヴィー語原本から継承された正式名称を持たない。従って，筆者の提案としては，少なくとも文中に題名が明示されているUI-2，UI-KB，UI-DBについては，原題を尊重して『世界の本質と人間の霊魂に関する解説』と称した方が内容にも相応しいと考えている。

3.『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本・刊本・翻訳・研究

3-1. 既存の写本：次に，既存の写本状況について纏めよう。上述のように

UI の写本は，イランから送付された『ゾロアスター教教示書集』がムンバイ周辺で保存されていたコーデックスの中に収録される形で伝えられていた。以下では，それらに由来する既存の写本の伝承経路を概観しよう。ジーヴァーンジー・モーディー神官（1854 ～ 1933 年）によると（Unvâlâ 1922, Vol. 1, pp. 3-42），インドでのゾロアスター教教示書の書写伝統には以下の 2 方式がある。

3-1-1. 蒐集方式の伝承：第 1 に，各教示書を蒐集し，単純にバインドする伝承方式である。バインドした神官の名を冠して下記の 3 種類が知られている。

①『バフマン・プーンジーイェ蒐集版教示書集』

②『バルズー・カームディーン蒐集版教示書集』

③『ホルムズヤール・フラムローズ蒐集版教示書集』

このうち，①の『バフマン・プーンジーイェ蒐集版』の写本は現存しない。

②の『バルズー・カームディーン蒐集版』の写本は，ヤズデギルド暦 1006 年＝西暦 1636 年に上述のバルズー・カームディーン神官が書写した自筆本が，1922 年まではマーフヤール・ナオロージー・クータル神官の蔵書として伝わっていた（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 5）。この自筆本の ff. 272-287 に『ウラマー・イェ・イスラーム』が含まれていたとされるが，そのバージョンの内訳やこの写本の現在の所在は不明である。

③の『ホルムズヤール・フラムローズ蒐集版』の写本は，ホルムズヤール神官自身が 8 つの教示書を蒐集して書写した自筆本が，K. R. カーマ東洋研究所（ムンバイ）に Codex 240 として所蔵されていた（Dhabhar 1923a, p. 298）。このコーデックスは UI-1 と UL-2 の 2 つのバージョンを含み，ff. 169-179 が UI-1 に，ff. 179-186 が UI-2 に当たるとされる。大部の著作なのでコロフォンは 10 箇所に存在するが，UI-1 と UI-2 は，ヤズデギルド暦 1014 年＝西暦 1644 年に書写されたと見られる。

3-1-2. 編集方式の伝承：これに対して，上記の蒐集版を主題別に編集し直したのが第2の伝承方式である。編集した神官の名を冠して，下記の2種類が知られている。

①『バルズー・カームディーン編集版教示書集』

②『ダーラーブ・ホルムズヤール編集版書集』

このうち，①の『バルズー・カームディーン編集版』は，上記のバルズー・カームディーン神官が蒐集した教示書を，本人が自分で編集し直した文献である。彼の自筆本は散逸したが，孫写本がヤズデギルド暦1246年＝西暦1876年に書写され，モッラー・フェーローズ図書館（現在ではK. R. カーマ東洋研究所内に併設）にCodex 106として所蔵されているとされる（Dhabhar 1923b, p. 72）。

②の『ダーラーブ・ホルムズヤール編集版』は，ホルムズヤール神官の息子のダーラーブ神官が，父親が蒐集した8つの教示書に自身が蒐集した5つの教示書を加えて編集した文献である。モーディー神官によると（Unvâlâ 1922, Vol. 1, pp. 37-42），この編集版の独立写本としては，いずれもダーラーブ神官の自筆本である以下の3つが底本となり，特にCodex MUに従ったとのことである。

・Codex SH：ヤズデギルド暦1047年＝西暦1677年書写，シャープールシャー・ホーディワーラー神官個人所蔵。1922年以降は所在不明。

・Codex BU：ヤズデギルド暦1049年＝西暦1679年書写，ムンバイ大学にBUL Vol. LIとして所蔵（Sarfarāz 1935, pp. 324-329）。

・Codex MU[8]：ヤズデギルド暦1061年＝西暦1691年書写，マーフヤール・ナオロージー・クータル神官個人所蔵。1922年以降は所在不明。

以上のデータから，本稿の研究以前に知られていたUIの写本系統を描くと，下記の図が得られる。

図表 4：従来の研究による写本系統図

（BK ＝バルズー・カームディーン，HF ＝ホルムズヤール・フラムローズ，
DH ＝ダーラーブ・ホルムズヤール，＿＿＿は現在は所在不明）

8 通の教示書→ BK 蒐集版（1636 年自筆本）→ BK 編集版→ 1876 年書写の孫写本
↓
HF 蒐集版（1644 年自筆本）→ DH 編集版　①（1677 年自筆本＝ Codex SH）
②（1679 年自筆本＝ Codex BU）
③（1691 年自筆本＝ Codex MU）

3-2. 刊本：UI に関する最初の刊本は，1829 年にケーニヒスベルク大学のユストゥス・オルスハウゼン（1800～1882 年）が作成した Olshausen 1829 である。底本は，フランスのゾロアスター教研究者アンクティユ・デュペロン（1731～1803 年）がインドから持ち帰り，フランス国立図書館に BNF 1022-7 として収めた写本である。これは，Codex MU から派生したと推定されており（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 53），バージョンとしては UI-2 しか収録していない。

次いで，マーネクジー・ウーンワーラー神官（1919 年没）が Codex SH, Codex BU，Codex MU の 3 つを校合した草稿を，1922 年にモーディー神官が石版刷りとして死後出版した Unvâlâ 1922 がある。UI-1，UI-2 は，Vol. 2, pp. ٧٢-٨٦ に収録されている。しかし，本書は Codex MU を底本にしたとされるものの（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 42），異読の注記を欠き，3 つのコーデックス間の相違は不明である。それに加えて，BK 蒐集版と HF 蒐集版を参照しなかった理由も分からない。また，モーディー神官が序文で認めているように（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 54），この時代にはゾロアスター教徒の書写生が消滅しており，石版を筆写したのはムスリムだったから，ゾロアスター教用語については誤写が続出した。これらが充分に訂正されないままに出版された点も問

題である。

1990 年には，イラン人研究者のパルヴィーズ・アズカーイーが，ペルシア語で UI-2 の校訂を発表した（Azkā'ī 1990）。彼の典拠は，テヘラン大学中央図書館に MF٩١٤ として収められている BNF 1022-7 写本のマイクロフィルムである。彼はそれと Unvâlâ 1922 を対照し，独自の校訂を完成させた。だが，Codex MU から書写されたことが判明し，それより確実に質が劣るであろう BNF 1022-7 写本の，更に質が劣るであろうマイクロフィルムを，異読を欠いた刊本と対照させて，一体どのような新しい成果が得られるのか筆者には不明である。

以上から判明するように，現行の 3 刊本は底本にした写本の選定とそれを石版刷りにする際の書写などの点で，いずれも不十分である。この刊本出版状況を図示すると，以下の表が得られる。

図表 5：刊本系統図

① Codex MU → BNF 1022-7 写本→ Olshausen 1829
② Codex SH，Codex BU，Codex MU を校合→ Unvâlâ 1922（異読の注記なし）
③ BNF 1022-7 写本のマイクロフィルム + Unvâlâ 1922 → Azkā'ī 1990

3-3. 翻訳：次に翻訳を概観しよう。1831 年のドイツ語訳（Vullers 1831, pp. 43-67）と 1898 年のフランス語訳（Blochet 1898, pp. 40-49）は，いずれも Olshausen 1829 の刊本を基にしている。当然，UI-2 のみの翻訳である。

1843 年には，インドに宣教師として滞在したウィルソン師が，1761 年頃に Codex BU から書写されたと見られる W 写本に依拠して（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 53），UI-2 の英訳を公表した（Wilson 1843, pp. 560-563）。

1860 年には，エルランゲン大学のフリードリヒ・シュピーゲル（1820 ～ 1905 年）が UI-DB の中に UI-2 の第 7 ～ 20 節のパラレル・パッセージに気付

き，ペルシア語原文を掲げて，ドイツ語訳した（Spiegel 1860, pp. 161-166）。

1932 年には，バフマンジー・ダーバル神官（1869〜1952 年）が Unvâlâ 1922 の欠点を修正すべく，BK 蒐集版の写本，HF 蒐集版の自筆本，DH 編集版の写本も参照しながら，UI-1 と UI-2 を英訳した（Dhabhar 1932, pp. 438-457）。だが，彼の英訳には，HF 蒐集版の自筆本に依拠する異読が 1 つも示されていない。これを信じるとしたら，Unvâlâ 1922 は HF 蒐集版の自筆本を完璧に再現していることになるが，そのような可能性はほぼ考えられない。

また，彼が参照したとする DH 編集版の写本は FSM 写本で（Dhabhar 1932, p. vi），モーディー神官が「西暦 1761 年以降に SH 写本から書写されてメヘルジー・ラーナー図書館に寄贈された」（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 48）としている孫写本に該当する。写本番号では，メヘルジー・ラーナー図書館（グジャラート州ナヴサーリー）所蔵 Codex 35 に当たる（Dhabhar 1923c, p. 123）。わざわざ Codex SH から筆写したことが明らかなこの写本を活用した理由は分からないが，もしかすると，1932 年には既に Codex SH が行方不明になっていたのかも知れない。

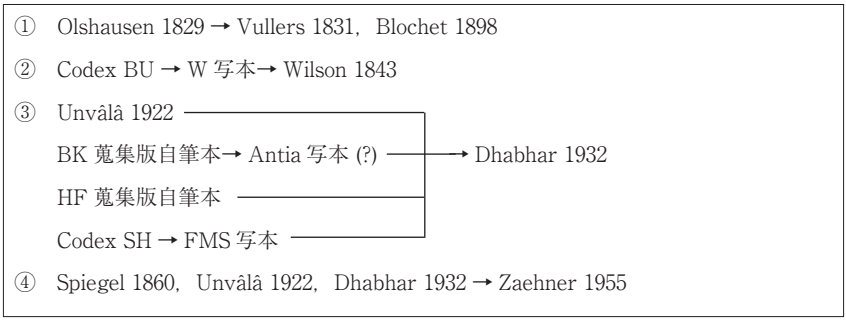
更に，彼が参照したとする BK 蒐集版の写本についても，「Ervad E. K. Antia 所蔵写本」としか注記がなく，コロフォンや書写生，書写年代，写本番号などの書誌情報を欠く。Unvâlâ 1922 への参照注記も，BK 編集版のページを指すなど不可解である（Dhabhar 1932, p. vii）。この写本が実在し，それが 1876 年書写のモッラー・フェーローズ図書館所蔵 Codex 106 の書写年代を遡るなら貴重なのだが，現地や Katrak 1941 のカタログで確認しても，筆者はこの写本を確定できなかった。つまり，完全に幻の写本を底本にしているのである。

1955 年には，ゼーナーが UI-2 の英訳を発表している（Zaehner 1955, pp. 409-418）。彼は，Unvâlâ 1922 と Dhabhar 1932 を基礎としつつ，シュピーゲルの指摘に従って UI-DB を参照し，全 52 節中の第 7 〜 20 節をエメンドしている。細かいことだが，ゼーナーはパラレル部分を第 18 節までと記している

ものの（Zaehner 1955, p. 409），本人が第 19 節まで修正しているし，本文を参照すると第 20 節までがパラレルである。

以上の翻訳状況を図示すると以下の表が得られる。

図表 6：翻訳系統図



3-4. 先行研究：2006 年までの先行研究に関しては，Adhami 2006 を参照。筆者が知る限りでこれに付け加えるとしたら，ムンバイで出版されたペルシア語研究書 *Dabestān-e Mazdayasnī* 1907（但し筆者は未見）と，イラン人研究者のモガッダムが Unvâlâ 1922 の石版刷りの UI-2 を無批判に活字に置き換えたペルシア語研究書（Moqaddam 1993, pp. ۳۱۰-۳۱۹）がある。

4.『ウラマー・イェ・イスラーム』の新出写本と散逸写本

4-1. イラン・イスラーム共和国とインド連邦共和国での写本調査：筆者の考えでは，上記の校訂と研究は，写本調査の範囲に大きな問題を内包している。即ち，調査の範囲が「19 ～ 20 世紀にゾロアスター教徒が所持している（いた）ムンバイ周辺の写本」に限定されているのである。もちろん，19 ～ 20 世紀の状況を考えれば，最大のゾロアスター教徒人口を抱えるムンバイに調査

が集中するのは止むを得なかった。

だが，本来はイランの神官団の教示書の中に収録されてインドへ送付された文献なのだから，原本の有無を調べるためにはイラン本国の写本図書館を確認すべきであった。また，アヴェスター語とパフラヴィー語はゾロアスター教徒が宗教目的でしか使用しない教会用語であり，それらの文字と言語による写本はゾロアスター教徒だけが保持しているだろう。しかし，ペルシア語はムスリムと共通の言語であり，ゾロアスター教ペルシア語文献がインドとイランのイスラーム系写本図書館に所蔵されている可能性も考慮すべきであった。

筆者は以上のような見通しのもとに，2009 ～ 2010 年にイラン・イスラーム共和国，トルコ共和国，インド連邦共和国で『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本の調査を行った。イランとトルコにおける調査では三島海雲記念財団から研究助成を頂戴し，インドにおける調査では三菱財団から研究助成を賜った。両財団には篤く感謝申し上げたい。

4-1-1. イラン・イスラーム共和国議会図書館：この調査の結果，イラン・イスラーム共和国のテヘランでは，議会図書館で Majles 87947 Codex と Majles 86908 Codex の 2 つのゾロアスター教ペルシア語コーデックスを探し当てることが出来た。やはり，イラン本国の写本図書館にも，ゾロアスター教ペルシア語コーデックスは現存していたのである。そこには以下のような『ウラマー・イェ・イスラーム』写本が含まれていた。

- UI-1 の写本 2 つ：Majles 87947 Codex の第 3 リサーラ，Majles 86908 Codex の第 20 リサーラの第 1 本
- UI-2 の写本 2 つ：Majles 87947 Codex の第 4 リサーラ，Majles 86908 Codex の第 20 リサーラの第 2 本
- UI-KB の写本 1 つ：Majles 86908 Codex の第 20 リサーラの第 3 本
- UI からの引用 3 ヶ所：Majles 87947 Codex の第 2 リサーラの f. 27a, ll.

12-15とf. 28b, ll. 2-3, Majles 86908 Codexの第12リサーラ

カタログ・データとしては，パフラヴィー語をサンスクリット語と誤認したり，フォリオ数を間違うなど問題が多いが，‘Abd al-Hoseyn Hā’erī et als. (eds), *Fehrest-e Noskhe-hā-ye Khattī-ye Ketābkhāne-ye Majles Showrā-ye Eslāmī*, Vol. 37, Tehrān, 1305-1377AH, pp. 273-274, 403-404を参照。全ての写本はデジタル画像を購入する形で入手できた。なお，調査に際しては，写本担当のモハンマド・ナザリー氏と，国際協力担当のマジード・サーエリー氏のお世話になった。ここに記して感謝申し上げたい。

4-1-2. K. R. カーマ東洋研究所：次にインド連邦共和国のムンバイでは，K. R. カーマ東洋研究所で，1644年書写の自筆本であるHF蒐集版＝カーマ東洋研究所Codex 240を閲覧しようと試みた。しかし，残念なことに1960年代に整理番号がCodex R-240と変更された記録を最後に，館内をいくら探しても行方不明になっていた。管見の及ぶ限りではUI-DBはこのコーデックスにしか収録されていないはずなので，この散逸は非常に痛い。

また，同研究所では，1876年に書写されたBK編集版の孫写本＝モッラー・フェーローズ図書館所蔵Codex 106が，K. R. カーマ東洋研究所に移管される際にB-VIII-3と整理番号が変更されて現存していた。このコーデックスのf. 500, l. 16-f. 506, l. 2が『ウラマー・イェ・イスラーム』に当たり，UI-1とUI-2を収録していた。これで，『BK編集版』におけるUI-1とUI-2は再現できる。

更に，同研究所では，『DH編集版』のグジャラート語訳写本を見付けることが出来た。これは，ダーラーブ神官本人がサムヴァト暦1747年＝西暦1690年にペルシア語原文をグジャラート語訳した自筆本からの写本で，K. R. カーマ東洋研究所所蔵Codex 126として保管されていた（Dhabhar 1923a, p. 164）。この他，カタログ・データによれば，同様のDH編集版のグジャラート語訳写本としてLibrary of Ervad Bomanji Aspandiarji Framji Rabadi (Surat) 所蔵

Katrak No. 425 写本：サムヴァト暦 1890 年＝西暦 1833 年書写も存在するとされる（Katrak 1941, p. 108）。しかし，いずれも『DH 編集版』のペルシア語原本のどれかに依存していることが明らかな翻訳なので，今回の校訂では活用しなかった。

K. R. カーマ東洋研究所では写本の書写しか認められないため，全て筆写によって入手した。なお，調査に際しては，所長のムーヌチェルジー・カーマ師，司書長のナワーズ・モーディー博士，司書のヤスミン・ハーン女史，サリータ・コード女史にお世話になった。ここに記して感謝申し上げたい。

4-1-3. ムンバイ大学ラージャバイ時計台図書館：同じくムンバイでは，ムンバイ大学ラージャバイ時計台図書館で，1679 年書写の自筆本である Codex BU ＝ムンバイ大学所蔵 BUL Vol. LI を閲覧した。この 2 巻本コーデックスの第 2 巻の f. 481a, l. 6-f. 484b, l. 2 が『ウラマー・イェ・イスラーム』に当たり，UI-1 と UI-2 を収録していた。ムンバイ大学では写本の書写しか認められないので，全て筆写によって入手した。なお，調査に際しては，司書のニータ・クルカルニー女史にお世話になった。記して感謝申し上げたい。

4-1-4. メヘルジー・ラーナー図書館：インド連邦共和国のナヴサーリーでは，メヘルジー・ラーナー図書館で，西暦 1761 年以降に Codex SH から書写された DH 編集版の孫写本 FSM 写本＝ Codex 35 が，Codex T-35 と整理番号が変更されて現存していたものを閲覧できた。このコーデックスの f. 583, l. 20-f. 595, l. 6 が『ウラマー・イェ・イスラーム』に当たり，UI-1 と UI-2 と UI-KB を収録していた。Codex T-35 が唯一 UI-KB を収録している Codex SH から書写されたという情報は正しかったようである。ここでは写本のデジカメ撮影が認められたので，自分で撮影する形で全文を入手できた。なお，調査に際しては，司書長のバルティス・ガーンディー女史にお世話になった。記して

感謝申し上げたい。

4-1-5. サーラール・ジャング図書館：インド連邦共和国のハイデラバードでは，サーラール・ジャング図書館で，ゾロアスター教ペルシア語写本コーデックスCodex 3493を探し当てることが出来た。やはり，インド西海岸以外のデカン高原内陸部にも，ゾロアスター教ペルシア語コーデックスは分散していたのである。そして，このコーデックスの第10リサーラの第5番目の論文として，UI-1とUI-2が収録されていた。カタログ・データとしては，Hāji Muhammad Ashraf (ed.), *A Concise Descriptive Catalogue of the Persian Manuscripts in the Salar Jung Museum and Library*, vol. 8, Hyderabad, 1983, p. 351を参照。

以上，2010年段階では，1920～30年代には現存していたはずのHF蒐集版が散逸していた。しかし，既発見のメヘルジー・ラーナー図書館所蔵Codex T-35の中に，UI-KBの写本1点を探し当てることが出来た。更に，テヘランで2コーデックスとハイデラバードで1コーデックス，各バージョンに換算すると，UI-1が3点，UI-2が3点，UI-KBが1点の写本が新たに出現した。この資料状況を纏めると，次頁の図表7のようになる。

以下では，新出の3つのコーデックスの内容を検討し，その資料的価値を判断しよう。

4-2. イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵Majles 87947 Codex：先ず，イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵Majles 87947 Codexを取り上げよう。このコーデックスはナスターリーク体で書かれ，ページ番号を欠く。フォリオ数で言えば，ff. 1a-266aの中に，ゾロアスター教関係の全41リサーラを収録している。内容的には多様なゾロアスター教関係のリサーラをバインドし

図表 7：2010 年段階での新出写本と散逸本のまとめ

（＿＿＿は，現在行方不明の写本）

8 通の教示書→ BK 蒐集版（1636 年自筆本）→ BK 編集版→ 1876 年書写の孫写本

↓（?）

Ervad E. K. Antia 所蔵写本

↓

HF 蒐集版（1644 年自筆本）→ DH 編集版　①（1677 年自筆本＝ Codex SH）

②（1679 年自筆本＝ Codex BU）

③（1691 年自筆本＝ Codex MU）

①→メヘルジー・ラーナー図書館 Codex T-35（1761 年以降書写，Dhabhar 1932 で活用）

②→ W 写本（1761 年頃書写，Wilson 1843 で活用）

③→ BNF 1022-7 写本（Olshausen 1829 で活用）

新出コーデックス

イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 87947 Codex

イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 86908 Codex

ハイデラバード・サーラール・ジャング図書館所蔵 Persian 3493 Codex

たもので，『編集版教示集』の一種である。

この中で 4 ヶ所，『ウラマー・イェ・イスラーム』を確認できる。

・第 2 リサーラにおける 2 箇所の引用（f. 27a, ll. 12-15, f. 28b, ll. 2-3）

・第 3 リサーラ（ff. 36a-40b）：UI-1

・第 4 リサーラ（ff. 40b-45a）：UI-2

4-2-1. コロフォン：このコーデックスには，全体をカバーするコロフォンは確認できない。その代わり，個々のリサーラのコロフォンとして，以下の 7 つを確認できた。

図表 8：Majles 87947 Codex 所収の各リサーラのコロフォンの整理

リサーラ	フォリオ	コロフォンの内容
第 5 リサーラ	f. 51b	ヤズデギルド暦 866 年ファルヴァルディーン月オルディーベヘシュト日（＝西暦 1496 年）に、ロスタム・エスファンディヤールが書写。
第 5 リサーラの補遺	f. 54a	ヤズデギルド暦 866 年ファルヴァルディーン月シャフリーヴァル日（＝西暦 1496 年）に、ジャムシード・ブン・エスファンディヤール（中略）・グーダルズ・ヘールベダーンのノートから書写。
第 9 リサーラ	f. 88a	ヤズデギルド暦 996 年アーザル月 9 日（＝西暦 1626 年）に、フェリードゥーン・ブン・マルズバーンとロスタム・ブン・ダストゥール・ヌーシーラヴァーン・ブン・マルズバーン・ダストゥールが書写。
第 10 リサーラ	ff. 91a-91b	ヤズデギルド暦 1036 年ティール月アーザル日（＝西暦 1686 年）に、ダストゥール・ヌーシーラヴァーン・ダストゥール・マルズバーン（後略）が書写。
第 30 リサーラ	f. 198b	ヤズデギルド暦 1061 年メフル月グーシュ日（＝西暦 1691 年）に、ダストゥール・ヌーシーラヴァーン・マルズバーン・ケルマーニーが、ヘールベド・ダーラーブ・ワラド・ホルムズヤールの為に書写。
第 33 リサーラ	f. 230b	ヤズデギルド暦 855 年デイ月デヒーディーン日（＝西暦 1485 年）に、ヒンドゥースターンのアンジョマンのために書写。
第 36 リサーラ	f. 248b	ヤズデギルド暦 1061 年シャフリーワル月ホルマズド日（＝西暦 1691 年）に、ヘールベド・ダーラーブ・ワラド・ホルムズヤールが書写。

以上のコロフォンから第 2，第 3，第 4 リサーラの書写年代を特定することは出来ない。しかし，第 36 リサーラはダーラーブ神官（前出の DH 編集版の編者）が書写しているから，Majles 87947 Codex 全体が編集された時期は 1691 年以降で，このコーデックスの成立には彼が係わっていると推定できる。

4-2-2. 蔵書印とグジャラート文字数字：このコーデックスの由来を知るもう一つの手がかりは，f. 37b，f. 91b，f. 107a，f. 227a に捺された個人の蔵書印であり，そこには「Mahiar Nowroji Kutar」とローマ字で記されている。ということは，このコーデックスは前出のマーフヤール・ナオロージー・クータ

ル神官の蔵書だった時期があることになる。しかし，19 ～ 20 世紀のゾロアスター教写本の流れとして，イラン→インドはあり得ても，インド→イランという例を筆者は知らない。この写本がどのような経緯でイラン・イスラーム共和国議会図書館に所蔵されるようになったのかは不明である。

また，各フォリオの b 面の右上に，グジャラート数字で番号が振ってある。F. 1b の数字は૩૪？（34?）とあって，下一桁が読み取れないのだが，f. 2b には૩૪૫（345）とある。そして，f. 265b に૬૦૩（603）とある。所有者がパールスィー（おそらくクータル神官）だった際に，フォリオの通し番号として振られた番号だろう。このグジャラート数字が正確だとすると，現存 Codex には 3 フォリオ不足している。また，現存の第 1 フォリオ以前にもう 343 フォリオ存在していたと考えられる。

更に，獅子が刀を持った図柄の蔵書印も随所（ff. 35b, 36a など）に見られる。これはパフラヴィー王政時代（1925 ～ 79 年）の蔵書印なので，クータル神官の蔵書だった Majles 87947 Codex がイランへ移動した時期は 1979 年以前と確定できる。

4-2-3. マーフヤール・ナオロージー・クータル神官と彼の蔵書：ここで，クータル神官と彼の蔵書印を手掛かりとして，Majles 87947 Codex の由来を考察してみたい。このクータル神官は，1922 年のモーディー神官情報によれば，当時の BK 蒐集版と Codex MU の所有者であった。また，同じくモーディー神官情報によれば（Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 42），彼は刊本を校訂したマーノクジー・ウーンワーラー神官の従兄弟に当たり，蔵書を共用していたようである。更に，筆者が 2009 年にメヘルジー・ラーナー図書館で確認したところでは，彼のグジャラート語著作として *Navsari Navar ane Nirangdinni Fehrest*, 2vols, Navsari, 1928-29 が現存しており，1920 年代には著作家として活動した形跡が窺える。しかし，現在では彼が所有していたはずの BK 蒐集版

と Codex MU の両方が紛失している。従って，彼の旧蔵写本のその後の行方を探すことは，ズルヴァーン主義研究の上でかなりの重要性を持つ。

この点に関して，筆者は2006～2009年にインド連邦共和国で調査中に少なくとも2回，彼の旧蔵写本が散逸した形跡を目にした。第1に，メヘルジー・ラーナー図書館には，クータル神官やジャムシェードジー・ウーンワーラー神官（1888～1961年。マーノクジー・ウーンワーラー神官の息子で，クータル神官の従甥）などが，1923年以降（正確な年代は不明）に寄贈したものの，約80年間放置され，2008年になってからやっと整理されたゾロアスター教写本コレクションが合計160冊存在した。筆者が実見したところでは，このコレクションの写本はアヴェスター語，パフラヴィー語，ペルシア語，グジャラート語の4言語に亙っていた。それらは現在ではメヘルジー・ラーナー図書館の写本Gコレクションに分類され，プライベートの予備リストが Dastur Dr. Firoze Kotwal, Daniel Sheffield and Bharti Gandhi (eds.), *Preliminary Descriptive List of Manuscripts Donated to the First Dastur Meherjirana Library since 1923*, 2008, Navsari として作成されている。今回は司書長のガーンディー女史の御厚意によって，この貴重なリストのコピーを取得することが出来た。記して感謝申し上げたい。

第2に，ナヴサーリー北方のスーラト市内にあるスーラト中央ナルマド図書館で，「Meherji Navroji Kutar 神官」の蔵書印があるペルシア語写本を8冊確認できた。こちらはデジカメ撮影が許可されたので，自分で撮影する形でタイトル・ページとコロフォンを入手できた。なお，学術的な図書館ではなく，一般市民がグジャラート語書籍を借りに来る公共図書館にゾロアスター教ペルシア語写本が存在するとの情報は，2006年3月8日にバローダ大学歴史学科のハサン・マフムード教授にお会いした際にご教示頂いたものである。記して感謝申し上げたい。

このように，筆者が偶然知りえた範囲内でも，クータル神官旧蔵写本はナヴ

サーリー，スーラト，テヘランの 3 ヶ所に分散している。しかし，メヘルジー・ラーナー図書館の放置分 160 冊のリストとスーラト中央ナルマド図書館の 8 冊の中には，BK 蒐集版と Codex MU は含まれていなかった。従って，テヘランにあった Majles 87947 Codex がそのどちらかに該当する可能性が考えられる。

4-2-4. Majles 87947 Codex は行方不明の Codex MU か？：上述のように，Majles 87947 Codex 所収の第 36 リサーラは 1691 年にダーラーブ神官が書写している。また，Majles 87947 Codex はクータル神官の蔵書だった時期がある。しかも，ナヴサーリーとスーラトに分散したクータル神官旧蔵写本の中には，Codex MU は含まれていない。とすると，この Majles 87947 Codex が，行方不明の Codex MU に当たる可能性が考えられる。

しかし，Codex MU が行方不明の現状では，Majles 87947 Codex と対照させるべき証拠が乏しい。現存している確実な Codex MU の原文は，モーディー神官が 1922 以前に Codex MU から引用したコロフォンだけである。それと Majles 87947 Codex の第 36 リサーラのコロフォンを対照させれば，書写年代が偶然一致しただけなのか，Majles 87947 Codex が Codex MU に当たるのか，自ずから答えが出るだろう。

詳しく見ると，Majles 87947 Codex の f. 248b, ll. 4-7 に書写されたコロフォンは，上段にもう 1 つ別のコロフォンが書き込まれ，その下に全体を総括するようにして書かれている。してみると，これ以後の第 37 リサーラから第 41 リサーラまでは後から増補された部分で，このコーデックスは本来はここで区切られ，このコロフォンが第 36 リサーラまでの書写年代を示すと考えられる。そして，検討の結果，この第 36 リサーラの 2 番目のコロフォンと，モーディー神官が Unvâlâ 1922, Vol. 1, p. 42 で Codex MU のものとして引用したコロフォンは，一言一句違わずに同一であった。以下にそれを引用してみよう。

تمام شد نسخه دین به آویز مازدیسنان بروز فرخ هورمزد بماه مبارک شهریور سال خج ستة بر یکهزار شصت و یک از شاهنشاه یزدجرد شهریار نویسنده این نسخه شریفه هیربد داراب ولد هرمزیار ابن قوام الدین بن کیقباد لقب سجانه هر که این نسخه بخواند و یا بنویسد و یا اموزد بر ین بنده دعا افرین و انوشه روانی رساند

マズダー崇拝教の善なる教えの写本が，皇帝ヤズデギルド・シャフリヤールから 1061 年のシャフリーヴァル月ホルマズド日 [= ヤズデギルド暦 1061 年 6 月 1 日 = 西暦 1691 年 8 月 22 日] に完成した。この貴重な写本の書写生は，ヘールベド・ダーラーブ・ワラド・ホルムズヤール・イブン・カワームッディーン・ブン・カイコバード，その称号はサジャーネ（である）。これを読み，書写し，学ぶ者は，この下僕（= ダーラーブ）の為にアーフリーンとアヌーシルヴァーンの祈祷をなされんことを。

書写した年月日から書写生，祈祷の要求に至るまで，これほど長い文章が偶然で一致するとは考えられない。このコロフォンの完全な一致を根拠として，イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵の Majles 87947 Codex の全 41 リサーラ中の第 1 から第 36 リサーラまでは，1922 ～ 32 年の間にムンバイから行方不明になった Codex MU に該当すると判断して良いと思われる。

4-3. イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 86908 Codex：次に，イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 86908 Codex を検討しよう。このコーデックスはナスターリーク体で書かれ，281 フォリオから成る。f. 2b にペルシア数字で ٢٧٤ とページ番号が振ってあり，そのまま f. 281b の ٥٥٣ まで続く。これが正しいとすれば，現存コーデックスは 1 フォリオ足りない。

また，フォリオ数から判断すれば，f. 1 以前にもう 272 フォリオ存在していたことになる。これは，ペルシア数字の連続性から，議会図書館に所蔵されている別のコーデックスである Majles 86907 Codex に該当すると考えられる[(9)]。つまり，ペルシア数字が振られた時点では，Majles 86907 Codex（272 フォリ

オ）+ Majles 86908 Codex（281 フォリオ）で 1 つの編集版教示書を構成していたのである。

Majles 86908 Codex は，281 フォリオの中にゾロアスター教関係の全 53 リサーラを収録している。内容的には，多様なゾロアスター教関係のリサーラをバインドしたもので，『編集版教示集』の一種である。

このコーデックスの中で 4 ヶ所，『ウラマー・イェ・イスラーム』を確認できる。

・第 12 リサーラ：フラグメント（f. 64a, ll. 9-14）

・第 20 リサーラ・その 1（ff. 81a-85a）：UI-1

・第 20 リサーラ・その 2（ff. 85a-87b）：UI-2

・第 20 リサーラ・その 3（ff. 88a-92a）：UI-KB

4-3-1. コロフォン：このコーデックスにも，全体をカバーするコロフォンは確認できない。その代わり，個々のリサーラの末尾にコロフォンが書かれているケースが 8 つある。以下では，それらを順に検討してみよう。

図表 9：Majles 86908 Codex 所収の各リサーラのコロフォンの整理

リサーラ	フォリオ	コロフォンの内容
第21リサーラ	f. 107a	ヤズデギルド暦 866 年ファルヴァルディーン月オルディーベヘシュト日（＝西暦 1496 年）に，ロスタム･エスファンディヤールが書写
第22リサーラの補遺	f. 109a	ヤズデギルド暦 866 年ファルヴァルディーン月シャフリーヴァル日（＝西暦 1496 年）に，ジャムシード･ブン･エスファンディヤール（中略）･グーダルズ･ヘールベドのノートから，ロスタム・エスファンディヤール・ブン・ロスタム（中略）・ブン・グーダルズ・ヘールベダーンが書写
第31リサーラ	ff. 150-151	ヤズデギルド暦 996 年バフマン月 11 日即ちヒジュラ暦 1036 年（＝西暦 1626 年）に，フェリードゥーン･ブン･マルズバーンとロスタム・ブン・ダストゥール・ヌーシーラヴァーン・ブン・マルズバーン・ダストゥールが書写
第33リサーラ	f. 153b	ヤズデギルド暦 1036 年ティール月アーザル日（＝西暦 1666 年）に書写

第36リサーラ	f. 193b	ヤズデジルド暦 1183 年（＝西暦 1813 年）に書写
第47リサーラ	f. 233b	ヤズデジルド暦 1191 年メフル月ザームヤード日，つまり，1822 年アープリール月 29 日に書写
第52リサーラ	f. 250a	ヤズデジルド暦 967 年ファルヴァルディーン月ディーン日（＝西暦 1597 年）に書写
第53リサーラ	f. 281b	ヤズデギルド暦 1049 年メフル月ラーム日（＝西暦 1679 年 10 月 12 日）に書写

この中で，第 21 リサーラのコロフォンは Majles 87947 Codex の第 5 リサーラのコロフォンと一致するので，これは写本の書写年代ではなく，原本の作成年代を指すコロフォンの引き写しであろう。同じく，第 22 リサーラのコロフォンは Majles 87947 Codex の第 5 リサーラの補遺のコロフォンと一致するから，これも写本の書写年代ではなく，原本の作成年代を指すコロフォンの引き写しと考えられる。しかし，これ以外に他のコーデックスと重なるコロフォンは発見できず，コロフォンから Majles 86908 Codex の来歴を辿ることはできなかった。

因みに，第 53 リサーラの完成日であるメフル月ラーム日は，ゾロアスター教徒たちがダストゥールの前で 1 年間の罪を懺悔すべき象徴的な日付である（Dhabhar 1932, p. 32）。年に一度のこの懺悔日に写本を完成させたとは，Majles 87947 Codex の書写生はかなりゾロアスター教の信仰篤い人物だったのではないかと推測できる。

4-3-2.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の収録：このコーデックスの由来を知るもう一つの手掛かりは，UI-KB を収録している点である。**2-1-1** で触れたように，UI-KB は BK 蒐集版，HF 蒐集版，Codex BU，および Majles 87947 Codex ＝ Codex MU には収録されておらず，Codex SH にだけ出現する。而して，その UI-KB が Majles 86908 Codex に収録されているとすると，Majles 86908 Codex は Codex SH そのものか，またはそれ

に密接に関係するコーデックスに当たる可能性がある。

4-3-3. Majles 86908 Codex は行方不明の Codex SH か？：ここで，Majles 86908 Codex と Codex SH の関係を検討しよう。現存している Codex SH のデータは，1922 年にモーディー神官が Unvâlâ 1922, Vol. 1, pp. 21-37 で紹介している Codex SH の構成と，Codex SH から書写されたメヘルジー・ラーナー図書館所蔵 Codex T-35 だけである。

先ず，全体の構造から比較しよう。上述のように，Majles 86908 Codex は本来は Majles 86907 Codex とセットで 1 つのコーデックスを構成していたと考えられ，両者のリサーラ数を合計すると 53 + 18 = 71 リサーラである。これに対して，Codex SH は全 62 リサーラを収録していたとされる。従って，可能性としては，Majles 86908 Codex + Majles 86907 Codex の中に，Codex SH が全体としてか部分的にか含まれているものと想定できる。しかし，各リサーラのコンコーダンスを作成したところ，両コーデックスのリサーラ構成は全く重ならなかった。この証拠から，Majles 86908 Codex は行方不明の Codex SH とは異なるコーデックスだと結論できる。

次に，Majles 86908 Codex 所収の UI-1，UI-2，UI-KB と，メヘルジー・ラーナー図書館所蔵 Codex T-35 所収の UI-1，UI-2，UI-KB の本文を比較してみよう。詳しい検討は下記の校訂に譲るが，例えば UI-KB 第 33 節の روا を روان とする書き損じに至るまで，両者はほとんどの読みが一致している。この証拠から，Majles 86908 Codex は行方不明の Codex SH とは異なるものの，極めて近い書写関係にあるコーデックスだと推定できる。

4-3-4. Majles 86908 Codex は Codex SH に対してどのような関係にあるか？：では，Majles 86908 Codex は Codex SH に対してどのような関係にあるのだろうか。この問いに直接答える術はないが，間接的な推定の材料ならある。既

に **3-1-2** で述べたように，ダーラーブ神官が自筆写本3点を書写する際には，父ホルムズヤール神官が1644年に作成したHF蒐集版そのままではなく，自分で集めた5点の教示書を追加して活用しているのである。ダーバル神官によれば（Dhabhar 1932, p. v），その追加の教示書は以下の5点である。

①『バルズー・カームディーンの教示書』

②『シャープール・バルーチーの教示書』

③『スーラトの神官団に宛てた教示書』

④『ダストゥール・ルスタム・ペーショーターンその他に宛てた書簡』

⑤『ダストゥール・アルダシール・ノーシーラヴァーン・ケルマーニーの書簡』

ということは，HF編集版になくてダーラーブ神官の自筆写本（の3冊の中の1冊）にあるUI-KBは，この5冊の教示書のいずれかから採録したと考えるのが自然である。この5冊の中に，ホルムズヤール神官が1644年に活用できず，ダーラーブ神官が1677年のCodex SH執筆に際して活用でき，且つ『カーメ・ボフレ教示書』と関係ある教示書があるとすれば，おそらくそこにUI-KBが含まれていて，ダーラーブ神官の典拠になったのであろう。

而して，この5冊の作成日時と内容は，ダーバル神官によれば以下のように纏められる。

①は，西暦1649年にバルズー・カームディーンがイランから受け取った教示書である。（Dhabhar 1932, p. lxii）

②は，評価が難しいとされる。パフラヴィー学者のエドワード・ウェスト（1824～1905年）によれば，本書は『カーメ・ボフレ教示書』（西暦1526年成立）と『カームディーン・シャープール教示書』（西暦1558年成立）からの抜粋に過ぎず，パールスィー学者のシャープール・ホーディワーラー（1870～1931年）によれば，『シャープール・バルーチー教示書』という題名自体がダーラーブ神官の混乱に起因する。（Dhabhar 1932, pp. lxiii-lxv）

③は，西暦 1669 年にスーラトの神官団がイランから受け取った教示書である。(Dhabhar 1932, pp. lxii-lxiii)

④は，西暦 1667 年以降に，スーラトからイランへ送られた書簡である。(Dhabhar 1932, p. lxii)

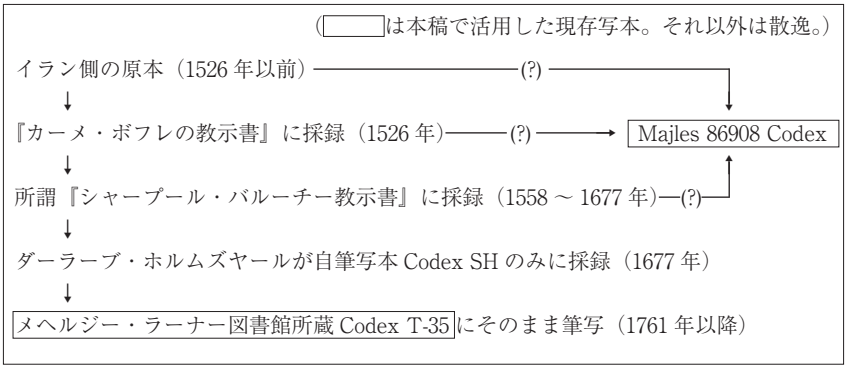
⑤は，西暦 1597 年にイランからアクバル帝の宮廷を訪れた神官が，バルーチの神官に宛てて書いた書簡である。(Dhabhar 1932, p. lx)

以上のような状況から，ダーラーブ神官が 1644 ～ 77 年のどこかの時点で『シャープール・バルーチー教示書』(と称される『カーメ・ボフレ教示書』と『カームディーン・シャープール教示書』からの抜粋）を入手し，そこに含まれていた UI-KB を自筆の Codex SH に採録したと推定できる。しかし，ダーラーブ神官は 2 年後の 1679 年に書写した Codex BU と Codex MU には，何らかの理由で UI-KB を採録しなかったのである。

とすると，Majles 86908 Codex は，Codex SH およびメヘルジー・ラーナー図書館所蔵 Codex T-35 とは異なった構成を持つ以上，これらに依存するコーデックスではなく，イラン側の原本か，『カーメ・ボフレ教示書』が現存した時代にそこから書写されたか，所謂『シャープール・バルーチー教示書』から書写されたかの 3 つの可能性が考えられる。本稿にとっては，Codex SH およびメヘルジー・ラーナー図書館所蔵 Codex T-35 からは独立したコーデックスであるとの結論で充分である。

ここで，図表 4 に示した UI-1，UI-2 の伝承経路とは異なる UI-KB の書写経路がある程度判明したので，それを図示しよう。UI-KB の写本が少なく，先行研究の対象にならなかったのは，このような傍流的な書写経路を辿ったためと考えられる。

図表 10：『カーメ・ボフレ教示書のウラマー・イェ・イスラーム』の書写経路



4-4. サーラール・ジャング図書館所蔵 Persian 3493 Codex：最後に，サーラール・ジャング図書館所蔵 Persian 3493 Codex を取り上げよう。このコーデックスはナスターリーク体で書かれ，581 フォリオからなる。その中に 28 点（カタログ・データでは 27 点だが，これは間違い）のリサーラが収録され，第 10 リサーラの第 5 番目（ff. 407-418）が，UI-1 と UI-2 に当たる。

4-4-1. コロフォン：このコーデックスには，全体をカバーするコロフォンが存在する。それによると，「マドラスのハヤート・ハーン・イブン・イマーム・ハーンが，ダストゥール・ジャーマースプ・アーサフィーの為に，ヒジュラ暦 1282 年（＝西暦 1865 年）に書写した」とされる。マドラス出身のムスリムが書写した写本がハイデラバードで見付かったということは，Majles 87947 Codex はインド亜大陸東南部で作成され，その地のゾロアスター教徒が活用した後で，イスラーム系の写本図書館に収められた可能性が高い。

4-4-2. 構成：次に，このコーデックスが『ゾロアスター教教示書』の書写伝統の中でどこに位置するかを確認するために，全体の構成を纏めてみよう。

図表 11：Persian 3493 Codex の全体の構成

リサーラ	フォリオ	リサーラの内容
第 1 リサーラ	ff. 1-25	サド・ダル
第 2 リサーラ	ff. 26-42	許可・不許可
第 3 リサーラ	ff. 42-52	アルダー・ウィーラーフ・ナーメ
第 4 リサーラ	ff. 52-56	ワスィーヤト・ナーメ
第 5 リサーラ	ff. 56-72	アルダー・ウィーラーフ・ナーメ
第 6 リサーラ	ff. 73-77	アルダー・ウィーラーフ・ナーメ
第 7 リサーラ	ff. 78-114	メーノーグ・フラド
第 8 リサーラ	ff. 114-116	ヌーシーラヴァーン一代記
第 9 リサーラ	ff. 117-132	サファヴィー王朝アッバース大王時代のマスナヴィー
第 10 リサーラ	ff. 133-469	10 点の雑録。第 5 番目が UI-1 と UI-2
第 11 リサーラ	ff. 469-476	イランの王子とウマルのマスナヴィー
第 12 リサーラ	ff. 476-477	雑録
第 13 リサーラ	ff. 477-480	シャー・ナーメの抜粋
第 14 リサーラ	ff. 480-482	ヌーシーラヴァーン教示書の抜粋
第 15 リサーラ	ff. 482-494	アメシャファンド・ナーメ
第 16 リサーラ	ff. 494-497	日々の務め
第 17 リサーラ	f. 497	マール・ナーメ
第 18 リサーラ	f. 498	マール・ナーメ（その 2）
第 19 リサーラ	ff. 498-500	スルターン・マフムードへのマスナヴィー
第 20 リサーラ	ff. 500-519	ダストゥール・ヌーシーラヴァーンのマスナヴィー
第 21 リサーラ	ff. 520-527	教示書
第 22 リサーラ	ff. 527-529	ヒンドゥースターンのアンジョマンへの書簡
第 23 リサーラ	ff. 529-533	ナリーマーン・ホーシャングの生涯
第 24 リサーラ	ff. 533-535	ファリードゥーンその他
第 25 リサーラ	ff. 535-538	イランのシャーたちの歴史
第 26 リサーラ	ff. 539-550	教示書
第 27 リサーラ	ff. 550-576	サド・ダル
第 28 リサーラ	ff. 577-581	ゲッセ・イェ・サンジャーン

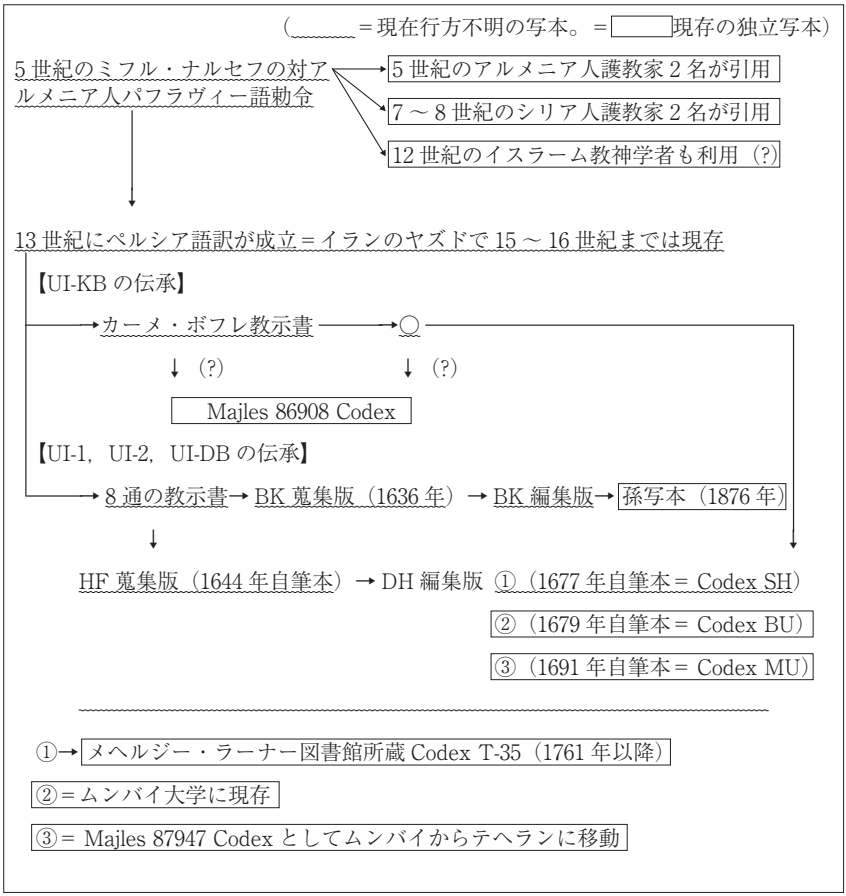
以上の構成は，Codex SH，Codex BU，Codex MU とは重ならない。ということは，HF 蒐集版の系統の教示書集ではない。しかし，ここに挙げられた各リサーラは既知のものばかりで，既存の編集版に新たに付け加えた材料はな

い。筆者はこれ以上 Persian 3493 Codex の由来を確定する手掛かりを持たないのだが，推測するとすれば，このコーデックスは19世紀に既存の教示書集から抜粋して，ハイデラバード付近で二次的に編集されたのではないかと思われる。

4-5. 2010年段階での『ウラマー・イェ・イスラーム』現存写本のまとめ：筆者は以上の調査の他にも，東京大学東洋文化研究所，東京大学文学部イスラム学研究室，東洋文庫（以上，東京），スレイマニエ図書館, ISAM 図書館（以上，イスタンブル），テヘラン大学中央図書館，イラン・イスラーム共和国議会図書館，マレク図書館，（以上，テヘラン），タブリーズ中央図書館（タブリーズ），ラシュト・メッリー図書館（以上，ラシュト），K. R. カーマ東洋研究所，ムンバイ大学，旧・王立アジア協会ムンバイ支部（以上，ムンバイ），ピール・ムハンマド・シャー聖者廟図書館，B. J. ヴィドヤバヴァン研究所，グジャラート・ヴィドヤピティ図書館（以上，アーメダバード）で，トルコ，イラク，イラン，アフガニスタン，パキスタン，インド，バングラデシュのペルシア語写本カタログを合計122図書館分チェックした。しかし，カタログ・データ上はこれ以上『ウラマー・イェ・イスラーム』の写本を見付けることは出来なかった。各図書館で未整理の写本（これが実はかなりある）や個人蔵の写本を除けば，現時点ではこれ以上の写本は出てこないと思われる。

そこで，2010年段階でのデータを一つの区切りとして，1922年のモーディー神官情報に依拠した図表4に代わる新しい写本系統図を作成したい。新校訂に必要な独立写本を網羅し，不必要な非独立写本を消去した系統図が，以下に示す図表12である。

図表 12：2010 年段階での『ウラマー・イェ・イスラーム』写本系統図



5.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の校訂と翻訳と思想

5-1.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の校訂：ここで，本稿の主題である『ウラマー・イェ・イスラーム』校訂に必要なデー

タが揃った。本節からは実際の校訂に移ろう。先ずUI-KBであるが，今回入手できた写本は以下の2つである。

・イラン議会図書館所蔵Majles 86908 Codex収録分（Majles 86908 UI-KBと略）

・メヘルジー・ラーナー図書館所蔵Codex T-35収録分（MR T-35 UI-KBと略）

校訂に際しては，Majles 86908 UI-KBを底本とし，MR T-35 UI-KBの読みは異読で示す。また，比較的短いUI-DBについても，UI-KBの校訂の中で一括して処理する。残念ながら，UI-DBを収録していたK. R. カーマ東洋研究所所蔵Codex R-240は行方不明になっていたので，Spiegel 1860, pp. 161-163かUnvâlâ 1922, pp. Vol. 2, pp. ٦٢-٦٦に依拠して再現するしかない。本稿では前者に依拠し，Spiegel UI-DBと略する。

全71節の節分けは，UI-2と重なる第1～48節まではZaehner 1955に倣った。続くUI-KBの第49～54節はUI-1の第24節～第29節に，UI-KBの第55～67節はUI-1の第11節～第23節に，UI-KBの第68～71節は再びUI-2の第49～52節に対応している。

また，第6章で校訂を示すUI-2との対照を明確にする為に，UI-2で採用した読みをUI-2の略号で注釈で示した部分がある。更に，写本ではکとگ，دとذの区別がないなど，現代のペルシア語正書法にはそぐわない点もあるが，表記はそのままにした。ただ，.と؟だけは筆者が補った。

کتاب علما اسلام[i] از روایت کامه بهره

1) در عهد الدین بعد از ششصد از یزدجردی علما و اسلام از دین آکاهی مســائل[ii] چند خواست کـرد . و در ین معنی سخن کفته اسـت ودر ین باب کتابی ساخته. و نام این کتاب علما ی اسلام نهاده است یعنی پیدا کننده چکونکی جهان و روح مردم از ازل تا ابد.

2) پرسید که شما انکیزش را چه مي‌کویند ایمان دارید یا نه ؟

3) هیربدان هیربد و استاد کوید ما انکیزش را ایمان داریم و قیامت خواهد بودن.

4) پس علما ی اسلام کفت جهان چون بوده است ؟ وخداي آفرینش مردم نیستي و باز زنده کردن مردم در ین چه مصلحت است ؟

5) دین دستور آن ایام کفت آنچه تو مي پرسي بسوي انکیزش نخست بباید دانست که آفریدن چه بود و میرانیدن چیست و باز امید زنده کردن چه است. پــس بباید کفتن که جهان بوده است یا آفریده است.

6) اوّل از جهان باز کویم جهان بوده است یا آفریده. اکر کوید بود این سخن محال بود بسبب آنکه در جهان نو نو چیزها مي افزاید و هم در جهان مي کاهد و چون چنین بود که مي کاهد و[iii] مي افزاید و نقصان میکیرد و باز زیادت میشود. پس هر چه پدیرنده کون فساد بود معلول بود و معلول خداي را نشاید. درست شد که جهان نبوده است و بیافریده اند. پس آفریده را از آفریدکار[iv] چاره نیست.

7) بباید دانستن که در کتابی[v] پهلوي که زرتشتیان در ان مذهب اند جهانرا آفریده کوید[vi]. پس چون کفتم که جهان آفریده است بباید کفتن که که آفرید وکی آفرید وچون آفرید و چرا آفرید.

8) در دین زرتشت چنین پیدا ست که جز[vii] از زمان دیکر همه آفریده است. و آفریدکاری[viii] زمان است[ix] و زمان را کناره پدید نیست و بالا پدید نیست و بن پدید نیست. و همیشه بوده

---

[i] MR T-35 UI-KB: علما ی اسلام
[ii] MR T-35 UI-KB: از 以降はなし。
[iii] MR T-35 UI-KB: چون 以降はなし。
[iv] MR T-35 UI-KB: افریدگار
[v] Spiegel UI-DB に従う。Majles 86908 UI-KB: دین
[vi] Spiegel UI-DB: گویند
[vii] Spiegel UI-DB に従う。Majles 86908 UI-KB: خد, MR T-35 UI-KB: خدا
[viii] Spiegel UI-DB: افریدکار
[ix] Spiegel UI-DB: را هم گویند

است و همیشه باشد. هر که خردي دارد نکوید که زمان از کجا آمد. با[x] این همه بزرکواري کی بود[xi] کس نبود که ویرا آفریدکار خواندي. چرا[xii]؟ زیرا که آفرینش نکرده بود.

9) پس آتش را و آب را[xiii] بیافرید. چو[xiv] بهم رسانید اورمزد موجود آمد. و زمان هم آفریدکار بود و هم خداوند[xv] بسوي آفرینش که کرد[xvi].

10) پس اورمزد روشن و پاك[xvii] و خوشبوي ونیکوکردار بود و بر همه نیکوئیها توانا بود. پس چون فروشیبتر نکرید نود و شش[xviii] هزار فرسنك آهرمن را[xix] دید سیاه و کند[xx] و پلید و بدکردار. اورمزد را شکفت آمد که خصمي سهمکین بود.

11) اورمزد چون آن خصم را دید اندیشید[xxi] که مرا این خصم ازمیان بر باید کرفت اندیشه کرد که بچند وجه اقرار کرد[xxii] و همه باندیشید.

12) پس [xxiii] آغاز کرد و اورمزد هر چه کرد بیاري زمان کرد[xxiv] وهر نیکي که در[xxv] اورمزد بایست بداده بود. و زمان درنك خداي اورمزد پیدا کرد و بر اندازه دوازده هزار سال باشد[xxvi]. و سپهر و مینو[xxvii] و نقاش[xxviii] در[xxix] وي پیوسته کرد.

13) و این دوازده برج که بـر سپهر بسته است هر یکی [xxx] هزار سال تربیت کنـد[xxxi] و بر

---

[x] Spiegel UI-DB: یا
[xi] Spiegel UI-DB: نبود
[xii] Spiegel UI-DB:چون
[xiii] Spiegel UI-DB:اب و اتش را
[xiv] MR T-35 UI-KB, Spiegel UI-DB: چون
[xv] Spiegel UI-DB: افریدگار
[xvi] Spiegel UI-DB: کرده بود
[xvii] Spiegel UI-DB: پاک و روشن
[xviii] Spiegel UI-DB: نه و شصت
[xix] Spiegel UI-DB: راه
[xx] Spiegel UI-DB: گنده
[xxi] Spiegel UI-DB: اندیشه
[xxii] Spiegel UI-DB: non
[xxiii] Spiegel UI-DB: افرینش
[xxiv] Spiegel UI-DB: non
[xxv] Spiegel UI-DB: non
[xxvi] Spiegel UI-DB: بر以降 non
[xxvii] Spiegel UI-DB: non
[xxviii] MR T-35 UI-KB では一語に纏めてمینونقاش
[xxix] Spiegel UI-DB: بر
[xxx] Spiegel UI-DB:را
[xxxi] Spiegel UI-DB: کرد

اندازه سه هزار سال كار روحاني ساخته آمد و حمل و ثور و جوزا تربيت كننده بود هر يكى هزار سال.

14) وپس آهريمن بيارئ زمان[xxxii] روي ببالا نهاد تا باورمزد جنك كند و لشكري ديـد ساخته وصفى بر[xxxiii] كشيده با دوزخ دواريد. پس از آن پليدي و تاريكي و كنده كه در وي بود لشكري ساخته كرد. ممكن بوده. در ين معني سخن بسيار است ومقصود كه هم هيچ بدست نداشت هم با دوزخ دواريد[xxxiv].

15) و از راستي كه دراورمزد ديد سه[xxxv] هزار سال نيارست جنبيد هم چندين[xxxvi] تا اين سه هزار سال[xxxvii] كار كيتي ساخته شد و تربيت كيتي بسرطان و اسد و سنبله رسيد. در ين معني سخن بسيار است.

16) اما سخن چند در ين معني ياد كنيم. در افريـــده[xxxviii] كيتي نخست آسمان پيدا كرد و بر اندازه بيست و چهار در بيست و چهار هزار فرسنك بالا تا بكروثمان بر شده و بر روي آسمان[xxxix]. بعد از چهل و پنج روز آب پيدا كرد. و بعد ازشصت روزاز آب و اسمان زمين پيدا آمد. و بعد از هفتاد و پنج روز نباتهاي بزرك و خورد [xl]. و بعد از سي روز كاو كيومرث پيدا آمد. و بعد از هشتاد روز آدم و هوا پديد آمد. و بهفتاد و پنج روز تمام شد چون تربيت بسرطان رسيده بود ادم و هوا پديد امده بود[xli].

17) چون اين سه هزار سال كه ياد كرده آمد[xlii] بكدشت مردم و جهان و ديكر آفرينشها موجود شد آهرمن دروند ديكر باره بجنبيد و زمانه چنان ساخت كه آهرمن جهانرا[xliii] سوراخ كرد و در كيتي دواريد. و هرچه در كيتي بود از بدي و پليدي خويش آلوده كرد.

[xxxii] Majles 86908 UI-KB, MR T-35 UI-KB にはなし。Spiegel UI-DB に従う。
[xxxiii] Majles 86908 UI-KB, MR T-35 UI-KB にはなし。Spiegel UI-DB に従う。
[xxxiv] Spiegel UI-DB: پس以降、ここまでなし。
[xxxv] Spiegel UI-DB: به سه
[xxxvi] Spiegel UI-DB に従う。
[xxxvii] MR T-35 UI-KB にはنيارستからここまでなし。
[xxxviii] Spiegel UI-DB: آفريدن
[xxxix] Spiegel UI-DB: تا بكروثمان برسد بر شدن بر روئ آسمان
[xl] Spiegel UI-DB: پيدا كرد
[xli] Spiegel UI-DB には最後の 1 文は欠如。
[xlii] Spiegel UI-DB: non
[xliii] Spiegel UI-DB に従う。Majles 86908 UI-KB, MR T-35 UI-KB: آسمانرا و كوه را و زمين را

18) و چون بار روحاني چيزي بدست نداشت در[xliv] كيتي نود شبانروز [xlv] جنك كرد و سپهر بشكست. و مينوان بياري كيتي آمدند.

19) و هفت ديو كه بتر بود بكرفتند و بر سپهر بردند [xlvi] و به بند مينوي ببستند. و آهرمن هزار درد بر كيومرث نهاد تا كذشته شد و از وی چند چيزها در وجود آمد. در ين معني سخن بسيار است. و از كاو هم چند كونه چيزها و حيوانات موجود شد. در ين معني سخن بسيار است[xlvii].

20) و پس آهريمن را بكرفتند هم بدان سوراخ كه در دنيا آمده بود با دوزخ بردند و به بند مينوي ببستند. پس دو فرشته چو ارديبهشت امشاسفند و بهرام ايزد بموكل او ايستاده اند.

21) و اكركسي كويد كه چون اينهمه رنج از وي است چون او را بكرفتند چرا نكشتند؟ بباید دانستن كه كسي جانوري بكشد و كويد كه فلان جانور بكشتم و چون جانور بكشت آش وي بآتش شد[xlviii] و آب با آب شد[xlix] و خاك با خاك شد[l] و باد با باد شد. و در وقت انكيزش انكيخته شود و در ميان چيست كه كسسته می شود؟

22) معلوم شد كه هيچ از ين كه كفته آمد نيست نشده است امّا هر يك از جوهر چهار كانه جدا شده اند. پس آهريمنی در ين سطبري چون كشته شود چون چنين كه كشندش بساكتي و درنك بدي با نيكي می آورند و تاريكی می اورند و تاريكي با روشني[li] و پليدي با پاكي تا استادي باشد نه كين و خصومت.

23) اكركويد كه چون اينهمه استادي داشت آهرمن خود چرا مي داد؟ ما در اوّل كفته ايم كه اورمزد و آهريمن هر دو از زمان موجود شده اند.

24) و هر كروهي بركونه ديكر ميكويند قومي كويند كه آهرمن را از آن داد تا اورمزد داند زمان برهمه چيزها توانا ست. و كروهي ميكفتند كه نبايست داد با اورمزد كفت كه چنين ميتوانم كرد و اورمزد را و ما را چنيـــن در رنج نبايست انداخت. و ديكري كفت زمانرا از بدي آهرمن و

[xliv] MR T-35 UI-KB: non
[xlv] Spiegel UI-DB:در گیتی بود
[xlvi] Spiegel UI-DB には、ここでオリジナルの文が挿入されている。これについては、この校訂の末尾を参照。
[xlvii] Spiegel UI-DB に従う。Majles 86908 UI-KB, MR T-35 UI-KB: در以降は non。
[xlviii] MR T-35 UI-KB: non
[xlix] MR T-35 UI-KB: non
[l] MR T-35 UI-KB: non
[li] MR T-35 UI-KB: روشنائی

از نيكي اورمزد چه[lii] رنج يا چه راحت؟ وكروهي كفتند كه اورمزد را و آهرمن را بداد تا نيكي و بدي در هم مي آميزاند چيزها را از رنك رنك در وجود مي آيد. و كروهي كويند كه آهرمن فرشته مقرب بود و بسبب نا فرمان كه كرد نشانه لعنت شد. درين معني سخن بسيار است.

25) اكنون با سر حكايت خويش شويم پس چون مينوان آهرمن را در دوزخ ببستند وديوان هفت كانه بر سپهر ببستند نام ديوان اين است زيرج[liii] و تــرح ونانكيش و ترمد و حشم و سبيح وبـــيز. و اورمزد هر يكي را ازاين هفت كانه روشني كرد [liv] آورده است و نام هررمزدي توانند كرد كيوان هورمزد و بهرام و شيد و ناهيد و تير و ماه.

26) چون اين كارها راست آمد سپهر بكشت و خورشيد و ستاركان برآمدن وفروشدن آغاز كردند و ساعات و روز و شب وسال و ماه پيدا شد و دهندكان پديد آمدند. درين معني سخن بسيار است.

27) و سه هزارسال مردم بود و ديوان[lv] نيز آشكارا بود. و جنك مردم با ديوان بودي. و در مردم چند چيز اورمزي است و چند آهريمني و در[lvi] كالبد آتش است و آب و خاك و باد. و ديكر روانست[lvii] و هوش است و بوي است و فروهر است. و ديكر حواس پنچكانه چون بصر و سمع و ذوق و شم و لمس است.

28) و كر كسي كويد كه اين همه از روان است نه چنانست بسبب آنكه بسيار كس باشد كه كنك باشند يــا لنك باشند. اكر كسي كويد روان چو اين ساز و بركها ندارد چه تواند كرد؟ چه نه چنانست كه ما مي بينيم كه آتش دهن ندارد و خورش ميخورد پاي ندارد چنانكه هيزم نهي از بوي هيزم برود چشم ندارد و چشمها را روشنائي دهد. اين ان سبب را كفته آمد تا دانيم كه با اين همه ساز وبركها كه بما داده است بي نظر او چيزي نباشيم و با اينهمه كبر و مني كه با يكديكر داريم. چون چيزها ى اورمزدي ياد كرديم آهريمني هم ياد كنيم تا دانند و آز و نياز و رشك و كين ورن و د روغ و خشم است درديوان كالبد داشتند. طبايع چهار كونه بودي.

[lii] MR T-35 UI-KB: non
[liii] MR T-35 UI-KB: زيرح
[liv] MR T-35 UI-KB: در
[lv] MR T-35 UI-KB: ديو
[lvi] MR T-35 UI-KB: non
[lvii] MR T-35 UI-KB: روانش

29) [lviii]

30) بسبب آنرا كه قوت اهرمن بدان ديوان فلكي ميرسد از آن ايشان را نو نو بدي جهان مي رساند تا قوت آهرمن نقصان مي شود و بدي آهرمن بــدي كم مي شود تا قيامت را همه بدي وي بكاهد و نيست شود.

31) و مردم آن ايام براه راست مي رفتند و ديوان را ميزدند تا آن وقت كه پادشاه جمشيد رسيد. ششصد شصت سال و شانزده سال و شش ماه پادشاهي كرد و خشم ديو بر وي راه يافت و بخدائي دعوي كرد. و ده ااک تازي ويرا بكرفت و بشكست و بدر پادشاهي به نشست.

32) و هزار سال براند و ديو و مردم بهمی می برآميخت بسياري جادوئي درجهان بكرد تا بآن وقت كه فريدون آتفيان بيامد و او را ببست. ده ااک يعني ده عيب اكنون ضحاك ميخوانند. بعد از آن در ميان مردمان جنك پديد آمد زيراكه بهري با ديو آميخته شده بودند و بعضي كمراهي ديده بود. پس فريدون جهد ميكرد تا مردمانرا با راه راست خواند. چو[lix] از نژاد وي افراسياب پديد آمد آشوب زيادت شد و چو ن كيخسرو پديد آمد جهانرا از بدان پاك كرد.

33) پس زرتشت اسفنتمان به پيغمبري آمد و اوستا و زند و پازند بياورد. كشتاسب شاه قبول كرد در جهان روان[lx] كرد و چهار يكي از جهان دين زرتشت قبول كردند و در جهان روا كردند. و سيصد سال كار دينداران هر روز بهتر بود. تا اسكندر رومي بيامد ديكر باره كفتكوي زيادت شد.

34) و بعد از آن اردشير بابكان آن كفتكوي كم كرد تا پانصد سال برآمد. بعد از آن لشكر عرب بجنبيد وعجم را زير دست كرد و هر روز ضعيف تر ميشود. تا آن وقت كه بهرام هماوند آيد و آن تخت ساسانيان مملكت بكيرد.

35) پس اوشيدر بامي بيايد و اوستا وزند نسكي زيادت از آنكه زرتشت آورده است بياورد و بهرام هماوند درجهان روا كند. و آن سه بهره كه در روزكار زرتشت نپديرفته باشند سه يكي زيادت قبـــول كند و چهار صد سال زيادت روا باشد. پس ديكر بار كفتكوي پديد آيد. در ين معني سخن بسيار است.

[lviii] Zaehner 1955 の節分けでは、第 29 節が欠落している。1972 年の reprint でも同じ。
[lix] MR T-35 UI-KB: چون
[lx] 明らかにواの書き損じである。

36) و ديكربار اوشيدرماه آيد و كفتكوي از ميان بر كــيرد و نسكي اوستا زيادت از اوشيدر بامي بياورد و در جهان روا كند. از مردمان كه بي دين باشند يك نيمه دين به قبول كنند. و ديكر باره زمانه نيكي بكذرد و زمانه بدي در آيد و هم بكذرد.

37) و بعد از آن سياوســـــانش ايـد نسكي اوستا زيادت از اوشيدر ماه بياورد و جهانيان همه دين به قبول كنند و كفتكوي از جهان بر خيزد و پنجاه وهفت سال بر آيد رستاخيز باشد. درين معني هم سخن بسيار است. كوتاه تركرفتم تا خواننده را ملالت نيفزايد.

38) آمديم با سر حكايات خويش آنكه ميكويند كه كس بمرد يا كشـــــتند باد وي با باد پيوست و خاك وي با خاك و آب وي با آب و آتش وي با آتش پيوست روان وهوش و بوي هر سه يكي شوند[lxi] و با فروهر پيوندند وهمه يكي شود. اكر كناه زيادت بود عقوبت دهند و كر مزد زيادت دارد ببهشت رسانند. پس ديوان كه با اين شخص بوده باشند همه فرسوده كشته باشد.

39) بجهت عقوبت كه كشيده بود و ارديبهشت امشاسفند ميانجي عقوبت بود نكذارد كه عقوبت زيادت از كناه دهندش. اكر بهشتي بود ببهشت و اكر كروثماني بود بكروثمان و اكر همستكاني بود به همستكان برندش تا روز[lxii] رستخيز.

40) زور ديوان بسود بود[lxiii] و از بدي نيست كشته بسبب آنكه مردم عقوبت كشند و ديوان كه با مردم اند بسودند.

41) بعد ازآن بهشتي و دوزخي را كالبد بر انكيزد هم از آن جوهر نخستين از مينو آتش آتش و از آب آب و از خاك خاك واز باد باد جمع كنند و روان باز بتن آيد.

42) و بدي كه تن مردم است اين زمان چون رستاخيز بود بدي نماند و مردمان بي مرك و پيري و نياز باشد همچنين هميشه زنده باشند نمانــد[lxiv].

43) و چهار پاي و مرغ و ماهي ايشانرا روان نبود و مينو چهار كونه باز ايشان پيوندند. بدان سبب ايشان را حساب نيست كه ايشان روان وفروهر ندارند. و دليل برين مردم خرد دارد و دانش و راستي و بالا ى سخن كفتن بر ايشان كار كردن بدست [lxv] همه بدست روان است. اكر نه همه

[lxi] MR T-35 UI-KB: كنند
[lxii] MR T-35 UI-KB: non
[lxiii] MR T-35 UI-KB: non
[lxiv] MR T-35 UI-KB: خاند
[lxv] Majles 86908 UI-KB: non

جانوران از ين چهار طبايع بهره دارند. پس مردم اينهمه زيادت دارد بسبب روان حساب و شمار مردم را بود و ديكر جانوران ندارند.

44) آنچه كفته آمد كه آفريدون چه بود وميرانيدن چيست باز اميد زنده كردن چراست؟ بباید دانستن كه آفريدون از سر رحمت و فضل وي بود. و ميرانيدن بسبب اينست كه ما چون امشاسفندان بودي كه نمردي آهرمن در ما نتوانستي كميخت بدي و تاريكي و پليدي و كنده وی هميشه بماندي. خون[lxvi] ما[lxvii] در كميخت ما مي رنجاند و مي كشودند مي پندارد كه ما را نيست ميكند نميداند كه آن بدي خويش است كه بر مي اندازد ميرانيدن اينست.

45) زنده باز كردن بر وي فريضه است بسبب آنكه ما بسياري رنج كشيده ايم باشيم چه در كيتي چه در مينو. پس فريضه باشد از سر رحمت وكرم خويش كه ما را زنده كند. اكر چه در ميانه مردم نيست وليكن پراكنده جمله كند شخص را بر انكيزد و پاداش دهد از نيكوئيهاي خويش[lxviii].

46) و آن بيست و يك نسك اوستا كه ميكوييم اوستا زفان اورمزد است و زند زفان ما و پازند آنكه در هر كشوری بدانند كه چه ميكويد.

47) و اين بيست و يك نسك اوستا را زند و اينست كه پيدا كنيم. هفت نسك را زند و پازند اينست كه ياد كرديم و هفت نسك را زند و پازند و شايست و ناشايست و كن و مكن و كوي و مكوي و ستان و مستان و خور و مخور و پاك و پليد و پوش و مپوش و مانند اين. اكر همه ياد كنيم كتاب بنهايت رسد كوتاه كـــــرفتيم. و هفت نسك را زند و پازند طبيعي و نجوم است. در اين معني هم سخن بسيار است.

48) ميكويند كه خورشيد كرد زمين بر ميكردد و بهر جا كه خورشيد ميرود چو اينجا كه مائيم آسمان وستاركان است. و خواه در زمين خواه در پهلوي زمين تواند بود كه ما خود در زير زمين ايم و مي كويم با بالا ي زمين ايم. و در اوستا و زند چنين مي كويد كه هر مردم كه بودند و آنچه اند و آنچه باشند همه بهشتي شوند و عقوبت روانرا باشد پيش از رستخيز.

49) و در ديكر مذاهب ميكويند كه[lxix] اكر كسی بمرد و كناهي دارد رنج كور مي كشد تا قيامت

[lxvi] چونの間違いか。Zaehner 1955, p. 418, note y 参照。
[lxvii] MR T-35 UI-KB: non
[lxviii] MR T-35 UI-KB: non
[lxix] MR T-35 UI-KB: non

و[lxx] در قيامت چون بر انكيزند كسي كه كناهي دارد در دوزخ كنند و هر كه مزدي كرده باشد در بهشت كنند.

50) و هر كروهي [lxxi] مى كويند كه بهشتي مائيم. و ديكر كروهي مي كويند هر چند سال آدمي ديكر باشد و يا قومي ديكر نه چنين كه شما با خويشتن ها نهاده آيد كه نفس از تنى بر آيد و در تنى ديكر مى شود. و رنج و آسايش همه در اين جهان است و آن جهان دورى نزديكست. در هر سخنى معني كفته آمد.

51) ما مي بينم كه در اين جهان چند جهاتها با ديدار شايد كردن. بر روي زمين از چند كونه جانور است بخورش و پوشش و كوش. اندر آب نيز مي بينيم كه چند كونه جانور اند كه در آب زندكاني تواند كرد و بر خشكي نتواند كرد. و جانور هست كه بر خشكي زندكاني تواند كرد و در آب نتوان كرد. و جانور هست كه در آب و در خاك هر دو زندكاني كنند. و بر بالاي ما ستاره و ماه و خورشيد مي بينيم همه شكل دارند كه در ين جهانست بر بالاي تراند. و آن جهان بزركوارجاي است. و كروهي فاني [lxxii] خوانند.

52) و كروهي ميكويند كه باقى ميانجي بايد كه بكويد كه كدام حق است و كدام باطل. و اين سخن راست است بسبب آنكه كتابي در دست دارد و دو چشم بر سر مردمان ديكر ما در ميان چشم وي كتاب ميانجي نباشد آن كتاب نشايد خواندن ميانجي روشنائي است بسبب آنكه در تاريكي كتاب نشايد خواندن پس چون در كتاب خواندن ميانجي بايد و در مذاهب و راه حق هم ميانجي بايد. چون جهود كويد كه ميانجي من الوقست. ترسا كويد ميانجي من كشا است. مسلمان كويد ميانجي من امام است. و رفيضان كويند ميانجي ما حق زمان است. زراتشتيان كويند ميانجي كوى را كس بايد بخرد بزرك و بهمت بلند و بروان روشن از همه جهانيان بزورتر و در انصاف دادن از همه كس بانصاف تر و در وقت ميانجي كري و آفريدكار را نكرد.

53) پس با اين همه همت بلندي و فربهري بوي بكروند و بهري نه. چون دور اهرمن آن نيز كه بوي بكرويده باشند دست از فرمان او باز دارند. و كسي كه انصاف خواهد داند كه چنين است كه كفتيم و تا پنجاه و هفت سال كه دامن قيامت است چنين خواهد بود[lxxiii].

[lxx] MR T-35 UI-KB: چو
[lxxi] MR T-35 UI-KB: كه
[lxxii] MR T-35 UI-KB: مى
[lxxiii] MR T-35 UI-KB: تا 以降なし。

54) و در آن پنجاه و هفت سال آهرمن دروند از مرك كرداري خود. چندان داشته باشد كه بامردم كمراه كردن نيز دارد وهم در آن كار سلاحش سوده شود همه كس از جور او برهند.

55) و در اين چهار فصل مانند كرده اند فصل تابستان ماننده كرده اند باينجهان. چرا؟ زيراكه از خواهنده درتابستان باندك چيزي زندكي[lxxiv] توانند كرد. و در ينجهان اكر خواهند هم باندك چيزي زندكاني توانند كردن.

56) فضل خزان مانند كرده اند بمرك. چرا؟ زيرا كه اكر برك زمستان دارد خرم باشد.

57) فصل زمستان مانند كرده اند به آن جهان. چرا؟ زيراكه اكر برک زمستان در تابستان برك نهاده باشند آسان باشد[lxxv] و كر كسي مزدي كرده باشد پس هم بدوزخ نبرند.

58) فصل بهار مانند كرده اند برستاخيز. چرا؟ زيرا كه در بهار همه مردم خرم باشند. در سبب آنست كه اكر كسي نعمتي دارد و در رسيده بود و هر كسي چيزي كه ندارد از رنج زمستان باشد. در رستخيز هم اكر كسي مزدي كرده باشد پاداش بايد و اكر كسي كناهی كرده بود از ان رنج دوزخ برشده باشد.

59) معني ديكر مردم مانند كرد اند بكيتي. چرا؟ زيرا كه مردم از همه چيزهاي كيتي نمونه دارند. خورشيد و ماه را دو چشم و ستاره را دندان و روز آمد و روز شد را دو كوش شپهر را زفان كه ميكردد زمين را كوشت و كوه را استخوان آب را خون نباتها را موي آسمان را ناخن و همچنين كه كيتي را و مردم را كه ياد كرده اند.

60) اورمزد و كيتي را كفته است چه هر چه در اورمزد است در كيتي نمونی است همچنانكه يك شخص درجمع كيتي خرد[lxxvi] است كيتي در جمع خرد اورمزد خرد است. و اينكه ميكويند هفت آسمان و هفت زمين در اوستا چنين كفته است. يكي آب و يكي آسمان و يكي زمين و يكي نباتها و يكي كوسفند و يكي مردم و يكي آتش. و هفت آسمان ديكر يكي باد پايه و يكي سپهر پايه و يكي ستر پايه و يكي ماه پايه و يكي خورشيد پايه و يكي اثر روشن و يكي ستی. و تن مردم هم هفت طبقه[lxxvii] است مغز و استخوان و استخوان[lxxviii] و رك و پي و كوشت و پوست

[lxxiv] MR T-35 UI-KB: زندگانی
[lxxv] MR T-35 UI-KB: اسان 以降なし。
[lxxvi] MR T-35 UI-KB: non
[lxxvii] Majles 86908 UI-KB, MR T-35 UI-KB: تبکهから修正。
[lxxviii] MR T-35 UI-KB: non

و موي.

61) چند آتش ميكويند يكي آنست كه بر بالا ست و هيچ چيز نخورد و ديكر در تن جانواران است همه چيزها خورد و سديكر در نباتها است و آب خورد و هيچ ديكر نخورد چهارم اينست كه در پيش ما است جز از آب همه چيزها خورد و پنچم آتش برق [lxxix] و سنكست.

62) ديكر آنكه پرسيدي كه در رستاخيز چون آتش در تن ما[lxxx] باشد بي خورشن چون تواند بود. معلوم است كه خورشيد از همه آتشها كرمتر است و بي خورشن است. معلوم شد كه خورشن آز ديو ميخورد كه[lxxxi] كفته آمد كه چند ديو با تن مردم ممتزج اند. پرسيد كه چون خورشن نباشد چون خوشي باشد. ببايد دانست كه چون آز و نياز نباشد بخورش چه حاجت باشد. چون درج كرما نباشد بسايه چه حاجت. چه درج سرما نباشد بآتش چه درج ورن نباشد بزن چه حاجت. همه آنست كه از درجي پناه با درجي مي بريم و اين ديوان و دروجان پيشتر ضد يكديكر اند وكه يكديكر را بزنند درج سرما و كرما بزند. ديكر خوش آن خوش كه هر چه پيش ما باشد پيش بايد. نه سير شويم و ديكر نبايد. معلومست كه آرزو و خورش آن وقت بكار آيد كه كرسنه باشد و آن وقت سير باشند هيچ چيز نبايد كه بخورند. چون از خوردنيها خرسند شوند ديكر نبايد خورد بناكام آن[lxxxii] خوردنيها همه نا خوش شود و باز كردد.

63) چون سرما باشد جامه تمام در پوشيدن و نزديك آتش شود بنشيند. چون از اندازه در كذرد بنا خوشي باز كردد. همچنين چون ورن ترونيدار وي را رنجانيدن چون با زن كِرد آيند چو[lxxxiii] از اندازه در كذرد جاي سخن كفتن نيست.

64) و خوشي كيتي همه بر ين جمله باشد و نا خوشي هم كذرنده است. پس خوشي طلب بايد كرد هر چند پيش باشد پيش بايد نه هر چند بيش باشد كم بايد و خوشي خوش آنست كه خداي را بشناسي و دينش قبول كني و فرمانش بجاي آورند و روانرا پرورانند.

65) و بدانند[lxxxiv] كه آفريدكار يكي است و دينش يكي. و نه آفريدكار باطل شود و نه دينش و راه يكي است و بي راه بسيار. و آفريدكار يكي است. و جوينده بسيار است. و هر كوهي بكونه

[lxxix] MR T-35 UI-KB: است
[lxxx] MR T-35 UI-KB: non
[lxxxi] MR T-35 UI-KB: non
[lxxxii] MR T-35 UI-KB: non
[lxxxiii] MR T-35 UI-KB: چون
[lxxxiv] MR T-35 UI-KB: non

دیکر خوانند. اول آن زرتشـــــتیان باز کویم ایشان یزدان را بزرکوار دانند و هست و بچند نامش خوانند. و بحق آفریدکار بدین حق که اکر یزدان و جمله امشاسفندان و جمله جهانیان و کردانند که زمان يك دانه کاورس در وجود تواند[lxxxv] آوردن. چه بروزکار در وجود آید.

66) وروزکار آن سبب را نوشتیم که بس کس بود که نداند که روزکار زمانست. دین بروزکار توان آموخت ادب بروزکار توان آموخت و پیشه بروزکار توان آموخت و زر و باغ بروزکار توان ساخت درخت بروزکار بروزید بروزکار بر دهد وحصنها بروزکار توان ساخت و وجود همه چیزها بروزکار تمام شود. و راست میشود و نتوان کفت که آفریدکاري بود که روزکار نبود اکر کسي کوید که روزکار روز و شب است بباید دانست که بسیاری بوده است که روز و شب نبوده است و زمان بوده است.

67) [lxxxvi] آهرمن را نیز هر[lxxxvii] کروهي بنامي خوانند و بدي از وي شناسند و بي زمان هم چیزي نتواند کرد. شکفت کاري است که بر ین شمار بد کردار میباشد و نا شایست است که ویرا بد کردار می خوانند. و عجب تر آنکه فرمان چنانست که بدی مي کنند که بسوي آن بدي که کنید و قفاتان بفرمایم.

68) شکفت ترین اینکه فرزند بدبیرستان مي فرستیم و نیکي شان آموزیم و از بدي شان دور میکنیم چون بنکري هنوز بدي پیش دانند که نیکي و نیکي هم در پیش خداي نیکو است و هم در پیش خلق. بدي هم در پیش آفریدکار بد است و هم در پیش مردم. و در مردم نیکي و بدي هست و در کیتي نیکي و بدي است و در سپهر نیکي و بدي هست و در مینو بهشت و دوزخ است.

69) و ما آفریده آفریدکاریم و باز کشت همه بدوست. اکر نبایستي آفریدکاری نیافریدي و در ین بدي که نمیباید و هست سّري هست یا خرد ما بدان نمیرسد پس چون چنین است کار خدای بخدای همي باید کذاشت.

70) آنچه کفته است میکرد وانچه فرموده است که بمیباید کرد و آنچه کفته است که اندیش مي اندیشد و آنچه کفته است که نمیباید[lxxxviii] اندیشید نمیباید اندیشید وآنچه کفته است که کوي میکوي و آنچه کفته است که مکوي نباید کفت و آنچه فرموده است خور میخورد و آنچه

[lxxxv] UI-1 では、نتوانند
[lxxxvi] MR T-35 UI-KB: که
[lxxxvii] MR T-35 UI-KB: non
[lxxxviii] MR T-35 UI-KB: non

فرموده است که مخورنباید خورد و آنچه کفته است پوش میپوش آنچه کفته است که مپوش نباید پوشید و مانند این. شرط ما آنست که به بندکي مشغول باشیم.

71) درود و آفرین بر پاکان و رهنمایان باد نیکي[lxxxix] باد ایدون باد. تمت تمام شد کتاب علما اسلام[xc].

UI-DB のオリジナルの文（第 19 節途中）

و از آن هفت دیو چهار دیو که بد تر بودند بگرفتند و بر فلك هشتم که آنرا فلك ثابتات خوانند به بند مینوئ ببستند. و [illegible] ستاره را موکل آن چهار دیو کردند که بدي نتوانند کرد. و سه دیو باقي را که چون زحل که نحس بزرگ است بر فلك هفتم جاي کردند بائین فلك او که فلك ششم باشد مشتري را که سعد بزرگست جاي کردند. و دیو دوم که مریخ است نخس اصغر است بر فلك پنجم جاي دادند و بر فلك چهارم که میان فلکهاست افتاب را مقام دادند و پادشاهئ فلك را با او مقرر کردند. و زحل و مریخ زبرابر فلك بالاتر از فلك آفتاب جاي کردند تا زهر پلیدي که در جهان ریزند آن زهر و پلیدي از تابش خورشید بگداخته شود و کمتر بزمین رسد و در فلك سیوم زهره را سعد اصغر است جاي کردند. و دیو سیوم که عطارد است ممتزج بر فلك دویم مسکن کردند و او را بدست آفتاب بند کردند تا کار فلکي را بر او دارد. اما از خورشید تنها نماند که زیرا که فلکش فروتر فلك از آفتابست و زهر و پلیدي ریزد همه بجهان رسد از آن او را ممتزج گویند که به بدي کردن مایل است چون در دست آفتاب گرفتارست بدي زیاده چنان که خواهد نتواند کرد. و مسکن او در میانه سعدان است لا علاج چو با سعد بود نیکي کند چو با نحس افتد بدي کند زین سبب او را نحس نگویند ممتزج گویند. و در فلك اول قمر را جاي کردند. و دیگر زیر فلك قمر فلکي هست که آنرا چوزهره فلک خوانند و ذنب و راس و کید اندر ان فلك اند. چو تربیت حمل و ثور و جوزا کذشه و آغاز تربیت بسرطان رسیده و نوبت او را بوده طالع عالم را پسیچ کردند و هر کوکبي بدان دوازده برج بخانه که شرف ایشان است قرار دادند بدین صورت که ثبت است که آسانتر فهم شود.

[lxxxix] MR T-35 UI-KB: non

[xc] MR T-35 UI-KB: 最後の一文はなし

5-2.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の翻訳：以下は，上記の校訂の日本語訳である。予め全体の構造を示すと，以下の11章に区分することが出来る。（章分けは筆者による。）

第1章（1）～（5）：ゾロアスター教神官とイスラームのウラマーの問答

第2章（6）～（26）：創造論

第3章（27）～（37）：人類史

第4章（38）～（45）：終末論

第5章（46）～（48）：『アヴェスター』全21巻の内容紹介

第6章（49）～（54）：『アヴェスター』の自然学・占星術編①死後の世界と仲介者の必要性

第7章（55）～（67）：『アヴェスター』の自然学・占星術編②四季との類比で語る現世から復活まで

第8章（61）～（64）：『アヴェスター』の自然学・占星術編③聖火の種類

第9章（65）～（67）：『アヴェスター』の自然学・占星術編④創造者としての時間

第10章（68）～（70）：教訓

第11章（71）：結語

これに加えて，UI-DBは第2章（19）に天体と悪の捕囚に関する独自エピソードを収録している。

『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イスラーム』

第1章：序論

（1）ヤズデジルドから600年を経た数えの年に[xci]，イスラームのウラマーが，（ゾロアスター教の）教えに精通した一人の人物に幾つかの問いをした。

xci　サーサーン王朝の最後の皇帝ヤズデギルド3世（在位630～651年）から600年後なので，本書のペルシア語訳の成立は西暦13世紀と確定される。

このようにして語られ，このような節立てで書物となった。この書物の名を『ウラマーとイスラーム』といい，つまり，『始原から終末に至るまでの世界の本質と人間の霊魂に関する解説』[xcii] である。

(2) 彼が問うて曰く，「貴方は復活について何と言うか？[xciii] 信仰を持っているか，それとも無いか？」

(3) ヘールベダーン・ヘールベドである師は曰く[xciv]，「余は復活に対して信仰を持っているし，復活を願っている。」

(4) 更にイスラームのウラマーが曰く，「世界はいつ存在したのか[xcv]？ また，神，人間の創造，人間の死と再生，こういったことにどんな利益があるのか？」

(5) 当時の聖教のダストゥールは曰く，「お前が復活について問うたことに関しては，先ずは創造が何であるか，死を齎すのは何であるか，復活の希望は何なのかを知らなくてはならない。そして，世界は存在していたのか，創造されたのか，言わなくてはならない。

---

xcii　このペルシア語タイトルをパフラヴィー語に訳せば，Paydāg Kunandag-ī Čē-ēwēnag-ī Gēhān ud Gyān-ī Mardom az Fradom tā Abdom となる。おそらく，これがミフル・ナルセフが付けた原題である。

xciii　Majles 86908 UI-KB では現在形。UI-2 の写本では過去形が多い。後者だと訳は「貴方はどんな信仰をもっていたか？」になり，改宗者への問いになってしまう。

xciv　UI-2 では「モーベダーン・モーベドは曰く」。サーサーン王朝時代の神官団のヒエラルキーに従えば，ヘールベダーン・ヘールベドの方がモーベダーン・モーベドより格下の役職である。原本ではヘールベダーン・ヘールベドだったものを，後代の書写の際により上級のモーベダーン・モーベドに書き換えたのではないかと推測される。

xcv　UI-2 では，「いつ」がなく，「世界は（創造されたのではなく）存在していたのか？」となり，問いのニュアンスが異なっている。

第 2 章：創造論

(6) 最初に余は世界について，世界が存在していたのか創造されたのか述べよう[xcvi]。もしも（世界が）存在していたと言うなら，この言葉は不可能である。何故なら，世界においては不断に新しいものは増加し続け，また，世界においては減少する時は減少し，増大し，欠落し，また増えるのである。何であれ生成消滅を受け入れるものは原因を持つ。原因を持つということは神にとっては相応しくない。正しくは，世界は存在していたわけではなく，創造されたのである。創造されたものには，当然，創造者があるはずである。

(7) こう知らねばならない。ザルトシュト教徒たちがその学派に属するパフラヴィー語の書物[xcvii]においては，世界は創造されたと言われている。余が世界は創造されたと言ったあとでは，誰が創造したのか，何時創造したのか，どうやって創造したのか，何故創造したのかを言わなくてはならない。

(8) ザルトシュトの教えにはこう明らかにされている。時間以外の[xcviii]全ては創造されたものである。創造者は時間である。時間には限界も明らかでなく，始原も明らかでなく，終焉も明らかでない。常にあったし，常にあるであろう。叡智を持つ者は誰であれ時間が何処に由来するか語らない。だが，これら全ての嘗てあった偉大さにもかかわらず，彼を創造者と呼ぶものはいない。何故か？　それは，それ（＝時間）が創造をしている訳ではないからである[xcix]。

---

xcvi　UI-2 では，「余は最初に世界について述べよう。それから，世界は存在していたのか，創造されたのか言おう」。

xcvii　Spiegel UI-DB に従う。13 世紀にパフラヴィー語原本が存在していた証拠である。この点については，Blochet が言語的な特徴から UI にはパフラヴィー語原本があり，ペルシア語版は翻訳に過ぎないのではないかと推測していたのが正しかった（Blochet 1898, pp. 24-27）。また，UI-1 とは違い，Majles 86908 UI-KB と Spiegel UI-DB には内容に関わる部分でイスラームへの言及がない点もこれを裏付けている。

xcviii　Spiegel UI-DB に従う。MR T-35 UI-KB では「時間からの神は」，UI-2 では「時間の限界は」とある。MR T-35 UI-KB も UI-2 も意味をなさない。

（9）それ（＝時間）は，火と水を創造した。それ（＝時間）が（火と水を）混ぜたら，オフルマズドが存在を受ける者となった。そして時間は，彼が行った創造の故に創造者となり，また主[c]となった。

（10）オフルマズドは光輝き，純粋で，甘く香り，善を成すもので，全ての善なるものに力を及ぼした。彼が下を見ると，96,000 ファルサングの彼方にアフレマンを発見した。それは，暗黒で，汚らしく，悪臭を放ち，悪をなす者だった。オフルマズドは，恐るべき敵の出現に驚愕した。

（11）オフルマズドはあの敵を見て，『私はこの敵を真ん中から除去しなくてはならない。』と考えた。また，彼はどれだけの武器を装備しようかと考えた。そして，全てを考えた[ci]。

（12）それから，（創造を）始めた。オフルマズドは，何であれ行うことは時間の援護によって行った。彼（＝時間）は，オフルマズドにおいて必要な全ての善なるもの（＝天圏とメーノーグ的形成者）を創造した。そして，「長期支配の時間」[cii]がオフルマズドの主として現れた。それは，長さにおいては 12,000 年だった。彼（＝オフルマズド）は，その中（＝「長期支配の時間」）に天圏とメーノーグ的（精神的）形成者を組み入れた。

（13）天圏と結合した 12 宮は，各一つに 1,000 年が割り当てられた。（最初の）3,000 年間に精神的[ciii]行為がなされ，白羊宮，金牛宮，双子宮が各 1,000 年

---

xcix　本文全体としては時間を創造者と呼んでいるのだが，第 8 節の最後の 2 文だけは異質である。後代の書写生の挿入か？

c　Spiegel UI-DB では，「創造者となった」。

ci　Spiegel UI-DB と UI-2 では，「どれだけの武器の装備で全て考えて考えた」。しかし，これでは意味を成さない。

cii　『イラン版ブンダヒシュン』（第 22〜25 節）に頻出するパフラヴィー語 zamān-ī derang-xvadāy に該当する単語。無限時間を限定した有限時間を指す。直訳して「遅延した時間」ではない。Zaehner 1955, p. 106 参照。

ciii　本書では，ペルシア語メーノーとアラビア語ルーハーニーを互換的に使って

を割り当てられた。

（14）それからアフレマンが，時間の援護によって[civ]オフルマズドと交戦するべく高みに昇った。彼（＝アフレマン）は（オフルマズドによって）形成された軍団[cv]を見て戦列を整えた[cvi]。それから，地獄へ舞い戻った。彼（＝アフレマン）の中にある忌まわしさ，暗黒さ，悪臭によって，軍団を形成した。これは可能だった。これについては，多くの言葉がある。その意図は，彼（＝アフレマン）が手に何も（武器が）無い時に，地獄へ舞い戻ったということである。

（15）オフルマズドの中に見た正しさのゆえに，彼は3,000年間動くことが出来なかった。この3,000年間にゲーティーグ的行為がなされた。世界の支配は，巨蟹宮，獅子宮，乙女宮に移った。これについても，多くの言葉がある。

（16）これ（＝ゲーティーグ的創造物）について，余（＝ヘールベダーン・ヘールベドである師）は幾らか語ろう。ゲーティーグ的創造物の最初に，彼は天空を創造した。その大きさは，24,000 × 24,000フラサングだった。頂きはガロートマーンまで達した。そして，天空の表面には[cvii]。45日後，水を創造した。60日後，水と天空から[cviii]大地を創造した。75日後，大小の植物を（創造した）。30日後，牛とカユーマルスを創造した。80日後，アダムとイヴを創

いる。翻訳では，「メーノーグ的」と「精神的」と訳し分ける。

civ　Spiegel UI-DBに従う。

cv　この「軍団（لشكري）」が具体的に何を指すのか不明。前出の文章中から探すとすると，「メーノーグ的形成者」しか考えられない。

cvi　UI-2では，「彼は悪魔から軍団を作り」。文意から言えば，「オフルマズドの軍団を見る」→「地獄へ舞い戻る」→「自分の軍団を形成する」と続くMajles 86908 UI-KBとSpiegel UI-DBが適切である。

cvii　Spiegel UI-DBには更に続きがあるが，このままでもその続きを採用しても，意味が通らないことに変わりは無い。

cviii　Spiegel UI-DBとUI-2では，「水から」。

造した。そして，75 日後に完成した。巨蟹宮の周期に達した時，アダムとイヴが現れた[cix]。

（17）言及したこの 3,000 年間が過ぎた時[cx]，人間と世界と他の創造物たちが存在するようになった。偽りのアフレマンはもう一度突進し，時間はアフレマンをして世界に穴をあけさせ[cxi]，彼（＝アフレマン）は世界に侵入した。そして，世界にあるあらゆるものを，自らの悪と堕落で汚していった。

（18）彼（＝アフレマン）は精神的なものを何も持っていなかったので，ゲーティーグ界で 90 昼夜戦った後，天圏を破壊した。すると，メーノーグ的存在者たちがゲーティーグ界を救いに現れた。

（19）彼ら（＝メーノーグ的存在者たち）は最悪なる 7 悪魔を捕らえ，天圏に連れて行き[cxii]，メーノーグ的な縄で縛った。すると，アフレマンは 1,000 の痛みをカユーマルスに与え，彼を死に至らせた。しかし，彼からは幾つかのものが誕生した。これについては，多くのことが言われている。また，牛からも，幾つかのものと動物が誕生した。これについても，多くのことが言われている。

（20）それから，彼らはアフレマンを捕らえ，（アフレマンが）この世に到来した穴から地獄へ叩き出した。そして，メーノーグ的な縄で縛り上げた。オルディーベヘシュト・アムシャースファンドやバフラーム・イーザドのような 2 人の天使が，彼（＝オフルマズド）に委任されて（見張りに）立った。

---

cix　Spiegel UI-DB と UI-2 では，「そして，75 日後に」以降はない。しかし，45 日 + 60 日 + 75 日 + 30 日 + 80 日 + 75 日 = 365 日なので，最後に 75 日がないと意味が通らない。

cx　Spiegel UI-DB と UI-2 には動詞は欠如。

cxi　UI-DB に従う。またしても，時間は善にも悪にも均等に加担する存在である。

cxii　Spiegel UI-DB はここにオリジナルの文を挿入する。これについては末尾を参照。

（21）もし，誰かが『全ての困難は彼（＝アフレマン）に由来するのだから，彼を捕らえた時にどうして殺さなかったのか？』と問うなら，こう知らなくてはならない。つまり，誰かが生き物を殺して，『私はかくかくの生き物を殺した』と言い，その生き物が殺されていたら，彼の火は火に帰り，彼の水は水に帰り，彼の土は土に帰り，彼の風は風に帰るのである。そして，復活の時に復活する。真ん中には切り裂かれた何があるのか？

（22）このように知られている。（上で）言及されたものは，何も非存在になったのではなく，それぞれ4元素に分解したのである。アフレマンがこの戦闘の中で殺されても，彼を静かにゆっくり（＝確実に）殺したことにならず，悪を善と，暗黒を光明と，汚染を清浄と混ぜ，悪意や敵意ではない能力が残るのである[cxiii]。

（23）もし，『彼（＝時間）がこの全ての能力を持っていたなら，アフレマン自体を何故創造したのか？』と問うなら，余は第1にこう答えよう。オフルマズドとアフレマンはどちらの2つも時間から生まれたのである。

（24）（時間がアフレマンを創造した理由に関しては）どの宗派も違った見解を持っている。①ある人々は，『彼（＝時間）はアフレマンを，オフルマズドに時間は万能であることを知らしめる為に創造したのだ』と言う。②別の宗派は，『彼を創造する必要は無かったが，オフルマズドに対して“余（＝時間）はオフルマズドや余に困難を齎すことなく，このように出来る”と言う為だった』と言う。③別の者は，『時間にとって，アフレマンの悪とオフルマズドの善から，どんな困難や安らぎがあるのか？』と言う。④ある宗派は，『彼（＝時間）がオフルマズドとアフレマンを創造したのは，善と悪を混合して，色々なものを生み出す為だった』と言う。⑤ある宗派は，『アフレマンは高位の天

cxiii　この部分の文意は不明だが，Majles 86908 UI-KB，MR T-35 UI-KB，UI-2の全ての写本の中に異読がないので，こうとしかならない。

使だったが，不服従の故に呪われたのだ』と言う[cxiv]。これについては多くの言葉がある。

（25）今や余は話の最後に移ろう。メーノーグ的存在者たちがアフレマンを地獄で縛り上げ，ゼーリジュ，タルフ[cxv]，ナーンギーシュ，タルマド，ヘシュム，セビーフ，ビーズ[cxvi]の 7 悪魔を天圏で縛り上げた時，オフルマズドはそれぞれを 7 つの光で包囲し，オフルマズド的な名を与えた。即ち，カイヴァーン（土星），オフルマズド（木星），バフラーム（火星），シェード（太陽），ナーヒード（金星），ティール（水星），マーフ（月）である[cxvii]。

（26）この行いなどが正しいと，天圏が回転し，太陽と星辰が出没を始め，時刻と日と夜と年と月が明らかになる。そして，与える者たち（12 宮）が出現する。これについては多くの言葉がある。

第 3 章：人類史

（27）3,000 年間，人間が存在し，悪魔たちも公然と存在していた。そして，人間の悪魔との戦いがあった。人間の中には，いくらかのオフルマズド的なものと，いくらかのアフレマン的なものがある。（オフルマズド的なものとは）体における火と水と土と風であり，更に霊魂と知性と芳香であり，フラワフルであり，更に視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚の五感である。

（28）もしも誰かが，これら全ては霊魂に由来すると言うのであれば，そうではない。何故なら，多くの聾唖者や跛者がいるではないか。もしも誰かが，

---

cxiv　これは明らかに，ユダヤ・キリスト教における堕天使ルシファーの物語をゾロアスター教に導入したものである。

cxv　Spiegel UI-DB，UI-2 では「ニーラフ」

cxvi　Spiegel UI-DB，UI-2 では「ビーサジュ」

cxvii　7 惑星を善なる存在と捉える点でも，UI-KB は二元論的ゾロアスター教と乖離する。後者では，不規則な動きをする惑星は悪魔の眷族と見做され，善に属する黄道十二宮の対立物である。

霊魂はこの全ての能力を具えておらず，どうしてそんなことが可能かと言うのであれば，そうではない。余が見たところでは，火には口は無いがものは食べるし（燃焼＝消化するし），足は無いが燃料を与えれば香りによって燃料へ行くし，目は無いが目に光を与えている。これは，我々が以下のように知るべく言われていることである。即ち，我々に与えられている全ての能力にもかかわらず，彼（＝オフルマズド）の恩寵が無ければ，我々が相互に持っている自尊や自我に反して，我々には何も無いのである。余はオフルマズド的なものを語ったから，人々が知るように，アフレマン的なものも語ろう。それらは，悪魔のうちで形作られてある欲望と貪欲と嫉妬と憎悪と情欲と虚偽と憤怒である。自然は4つの種類である。

（29）

（30）アフレマンの力が天圏のあの悪魔まで及ぶと，彼らにはそれによって新しいゲーティーグ的な悪が更新される。しかし最後には，アフレマン的な力が減少し，アフレマンの悪が小さい悪になり，復活に至って彼の全ての悪は消滅し，無となるのである。

（31）当時の人々は正しい道を行き，悪魔を撃滅していた。ジャムシードが大王になるまでは。彼は660年と16年と6ヶ月間[cxviii]大王位にあったが，憤怒の悪魔が彼の中に入って，神を自称した。そして，アラブ人ダハークが彼を捕らえて殺し，大王の宮廷に居座った。

（32）彼は1,000年間統治し，人間と悪魔を混ぜ，世界中で魔術を行った。フェリードゥーン・アーテフィヤーンが現れて彼を縛るまでは。ダハークとは「10の罪（ダフ・アーク）」の意味で，今ではザッハークと呼ばれている。この後，人間の間で戦争が起こった。何故なら，一部が悪魔と混ざり，罪悪に染まったからである。その時，フェリードゥーンが努力して，人類を正しい道へ

cxviii　Spiegel UI-DBでは，「616年6ヶ月間」。

導いた。彼の子孫からアフラースィヤーブが現れた時，混乱は増していた。カイ・ホスローが現れた時，彼は世界を諸悪から清めた。

（33）それから，ザルトシュト・エスファンタマーンが預言者となり，『アヴェスターとザンドとパーザンド』を齎した。ゴシュタースプ・シャーは（ザルトシュトから教えを）受け入れ，世界に広めた[cxix]。世界の 1 ／ 4 はザルトシュトの教えを受け入れ，世界に広めた。300 年間は，教えの人々の行いは日々良くなっていった。ギリシア世界のアレクサンダーが現れて，再び争論が増えるまでは。

（34）この後，アルダシール・バーバカーンがあの争論を鎮め，500 年が過ぎた。その後，アラブ軍がやってきてイラン人を支配下に置き，状況は日々悪化した。その時，バフラーム・ハマーヴァンド出現し，サーサーン王朝の玉座を掌握する。

（35）それから，ウシェーダル・バーミーが現れ，ザルトシュトが齎した『アヴェスターとザンド』に，もう 1 ナスク付け加えるだろう。そして，バフラーム・ハマーヴァンドは，（それを）世界に広めるだろう。ザルトシュトの時代に（教えを）受け入れていなかった 3（／ 4）のうち，1 ／ 3 以上が（教えを）受け入れた[cxx]。そして，400 年間は一層布教するだろう。その後，再び争論が巻き起こるだろう。これについては，多くのことが言われている。

（36）それから，ウシェーダル・マーフが現れ，争論を鎮め，ウシェーダル・バーミーが齎した『アヴェスター』にもう 1 ナスクを加え，世界に広めるだろう。教えを知らなかった人々の半分が，教えを受け入れるだろう。そしてまた，善の時代が過ぎ去り，悪の時代が到来し，そしてまたそれも過ぎ去るだろう。

---

cxix　Spiegel UI-DB では「世界にした」。

cxx　Spiegel UI-DB，UI-2 では「ウシェーダル・マーフが 3 回は一つを増やした」。ウシャーダル・マーフは次節で登場するので，ここでの言及は明らかにおかしい。

（37）その後，ソーシャーンスが現れ，ウシェーダル・マーフが齎した『アヴェスターとザンド』にもう 1 ナスク付け加え，世界の人々は全て教えを受け入れるだろう。世界から争論は消滅し，57 年が過ぎると復活が起こる。これについては，多くのことが言われている。しかし，余は読者を退屈させたくないので省略する。

第 4 章：終末論

（38）今や，余は自分の物語の終わりに来た[cxxi]。こう言われているのだが，誰かが死ぬか殺されるかしたら，彼の風は風と結びつき，彼の土は土と，彼の水は水と，彼の火は火と結びつく。そして，霊魂と知性と芳香はそれぞれ三つが一つになり，フラワフルと結びついて全てが一つになる。もし悪行が勝れば罰せられ，もし善行が勝れば天国へ送られる。そして，この個人と共にあった悪魔たちは全て殺される。

（39）引き出された罰について言えば，オルディーベヘシュト・アメシャースファンドが罰の調整者となり，罪悪を越えた罰が下されないようにする。天国が相応しければ天国へ，ガロードマーンが相応しければガロードマーンへ，ハメスタガーン（＝煉獄）が相応しければハメスタガーンへ行く。そして，復活までそこにいる。

（40）（復活の時には）悪魔たちは衰退し，悪は無化されている。何故なら，人間は罰せられ，人間と共にいた悪魔は壊滅するのである。

（41）その後，天国へ行った者と地獄へ行った者に，第一の実体から骨組みが甦る。（メーノーグ的存在者は）メーノーグ的存在者から，火は火から，水は水から，土は土から，風は風から集められ，霊魂は再び肉体に宿る。

（42）人間の肉体である悪は[cxxii]，復活が起こるその時，悪のままとどまりは

---

cxxi　この一文から，UI の原本は第 4 章までだったのではないかと思われる。

cxxii　Majles 86908 UI-KB に従う。Spiegel UI-DB，UI-2 は，「人間の肉体にあった

しない。人類には死や老年や欲望は無くなり，永遠に生きるだろう。

（43）四足動物，鳥，魚，彼らには霊魂は無いが，4 種類のメーノーグ的存在者が彼らに結びつく。何故なら，彼らには霊魂もフラワフルも無いので，計算も判断も出来ないのである。人間が叡智と知識と正しさと高さと舌で言語を話す能力と手で仕事する能力を持つ原因は，全て霊魂の支配下にある[cxxiii]。そうでなかったら，全ての動物は四元素から（の集合体）に過ぎない。しかし，人間はこれ（＝四元素の集合体）を超えている。それは霊魂の故に，人間は計算と判断が出来，他の動物は出来ないのである。

（44）創造とは何か，死を齎すのは何か，復活して生きる希望とは何かと言われてきたが，こう知らなくてはならない。即ち，創造とは彼（＝オフルマズド？）[cxxiv]の慈悲と恩寵に由来する。死を齎すとは，こういう理由である。もし我々がアメシャースファンドたちのようなら死なないのだが，アフレマンが我々の中で混合することも不可能になり，彼（アフレマン）の悪，闇，汚染，悪臭は永遠に残るだろう。彼（アフレマン）は我々と混合し，我々に苦痛を与え，殺害した時，彼は我々を無化したと考えるだろう。しかし，彼は自身の悪が倒されるとは知らない。（人間が悪魔と一体化した上で死ぬから，結果的に悪魔も無化されるのである。）死を齎すとはこういうことである。

（45）生き返らせるとは，彼（＝オフルマズド）の義務である。何故なら，我々はゲーティーグ界でもメーノーグ界でもひどく苦しむからである。それ

悪は」。ここでどちらの読みを採用するかは，ズルヴァーン主義理解に大きくかかわる。Spiegel UI-DB と UI-2 は「人間の肉体に（部分的であっても）悪が宿る」とし，Majles 86908 UI-KB は「人間の肉体は悪である」とする。

cxxiii　Spiegel UI-DB では，「霊魂である」。

cxxiv　この「彼」が，時間なのかオフルマズドなのかは大きな問題である。人間に慈愛を与えている点から見て，善悪に無関心なズルヴァーンではなく，悪と戦う善の創造神オフルマズドと思われる。しかし，そうすると誰が「創造」しているのか，はっきりしなくなる。

故，我々を生かしている「ご自身」（＝オフルマズド）の慈悲と慈愛の故に，それは義務なのである。たとえそれ（＝霊魂？）が人間の中にはなくとも[cxxv]，分散させたものを合体させ，個人に「ご自身」の善から慰めを与えるのである。

第5章：『アヴェスター』全21巻の内容紹介

（46）余が説明したような[cxxvi] 21ナスクの『アヴェスター』とは，『アヴェスター』がオフルマズドの言葉であり，『ザンド』が我々の言葉であり，『パーザンド』は誰もが（『アヴェスター』と『ザンド』が）どこの国でも何が語られているのか知る為のものである。

（47）また，21ナスクの『アヴェスターとザンド』とは，余が明らかにするところである。即ち，『ザンドとパーザンド』の7ナスクとは，余が述べてきたもの（＝創造から終末までの宇宙史）である。（第2の）『ザンドとパーザンド』の7ナスクとは，やってよいこととやってはいけないこと，やるべきことととやるべきでないこと，言うべきことと言うべきでないこと，取るべきことと取るべきでないこと，食べるべきものと食べるべきでないもの，清浄と汚染，着るべきものと着るべきでないもの，およびこれに類似のことである。もし，余が全てを述べていたら書物が終わらないので[cxxvii]，省略して述べた。（第3の）『ザンドとパーザンド』の7ナスクとは，自然学と占星術である。これについては，多くのことが言われている。

（48）それら（＝『アヴェスター』の自然学・占星術編）が言うには，太陽は大地の周囲を回転し，太陽の赴くところ，例えば我々のいるところでも，天圏と星辰も（そこに）ある。大地の中でも，大地の横でも，我々自身は大地の

cxxv　この一文は意味不明。写本に異読はなく，翻訳はこうとしかならない。

cxxvi　Spiegel UI-DBでは，「言われているような」。

cxxvii　原文は「終わるのだが」だが，明らかに間違いである。

下あることが出来る。また，余は大地の頂点にいるとも言おう[cxxviii]。『アヴェスターとザンド』には，こう言われている。即ち，嘗ていた人間，今いる人間，これからいる人間は，全て天国へ行く。彼らの霊魂は復活の前に罰を受ける。

第６章：『アヴェスター』の自然学・占星術編①死後の世界と仲介者の必要性

（49=UI-1: 24）他の宗派（＝イスラーム）では，人が亡くなって罪を犯していたら，復活[cxxix]まで幽鬼としての苦しみを味わい，復活に際しても罪を犯した者は地獄へ行き，善をなした者は天国へ行く[cxxx]。

（50=UI-1: 25）どの集団も，我々は天国にふさわしいと述べている。別の集団は以下のように述べている。即ち，何年間か人間が別の者になろうとも，別の種族に（なろうとも），汝が自分自身の諸肉体と（完全に）結び付くことはない。何故なら，霊魂は肉体から離れて，別の肉体へ行くのである。苦しみも安寧も，全てこの世のものである。遠いあの世は近いのである[cxxxi]。それぞれの言葉に意味が言われている。

（51=UI-1: 26）余が見るところでは，この世での視覚には幾つかの原因がある。地上には，食べ物においても毛皮においても耳においても，幾種類もの動物がいるのである。また，水の中でも，水中なら生きていけるが乾燥した中では無理という動物を見ることが出来る。乾燥した中なら生きていけるが，水中では無理という動物もいる。水中でも土中でも２つながらに生きていける動物

---

cxxviii 意味不明。しかし，写本に異読はない。

cxxix 「復活」を示す語として，敢えてゾロアスター教的なペルシア語「リスターヘーズ」ではなく，イスラーム的なアラビア語「キヤーマト」を用いている。明示はしていないが，「別の宗派」とはイスラームを指す。

cxxx ゾロアスター教では，一旦罪を贖った者でも大復活に際して天国へ行くとされる。

cxxxi 正確な文意は不明。

もいる。我々の上には星辰と月と太陽を見ることができるが，全てがこの世の姿を持っている。それらはこの世にあるが，より高みにある。あの世は一層偉大だが，ある宗派は移ろいゆくものだと述べている。

（52=UI-1: 27）ある集団は以下のように述べている。即ち，（宗教的な教えの）存続には，どこに真理があって，どこに虚偽が（あるのか）を述べる仲介者が必要である。この言葉は正しい。何故なら，彼が書物を手に持っており，人間の顔には2つの目がある。彼の目と本の間に仲介者が無いと本は読めない。暗闇では本は読めないので，仲介者は光である。そこで，本を読む時は仲介者が必要であり，宗派と正しい道の為にも仲介者が必要である。ユダヤ教徒は，「我々の仲介者はアルーク[cxxxii]である」と主張している。キリスト教徒は，「我々の仲介者はゴシャー[cxxxiii]である」と主張している。イスラーム教徒は，「我々の仲介者はイマームである」と主張している[cxxxiv]。（イスラームからの）異端派は，「我々の仲介者は時間の真理[cxxxv]である」と言っている。ザルトシュト教徒は，「我々の仲介者（＝ザルトシュト）は，偉大な叡智と高い威厳と輝く霊魂を持ち，あらゆる世人よりも強力で，正義を与えることにかけてはより正義である全ての者を上回る。また，仲介の時には，彼は創造者を見る。」と言っている。

（53=UI-1: 28）そして，この全ての高き威厳とフラワフルによって，彼らは彼（＝ザルトシュト）に従うが，一部はそうではない。アフレマンの時代には，彼に従っていた者も，彼の命令から手を引く。正義を与えようとしていた者（＝ザルトシュト後の3人の救世主）も，私が述べたようだと知る。復活の

---

cxxxii　エルークやアルワク等の読みも可能だが，いずれも意味不明。ユダヤ教の預言者なら，イブラーヒームかムーサーが予想されるのだが。

cxxxiii　語義は「開く者」。キリスト教ならイーサーが予想されるのだが。

cxxxiv　イスラーム教徒全体の主張というよりは，明らかにシーア派の主張である。

cxxxv　写本によっては「時代のサハフ」とも表記される。

最後の 57 年間まで，このようである。

（54=UI-1: 29）その 57 年間に，アフレマンが自分で死を作ることで（人間の生命を）刈り取る。彼（＝オフルマズド）は人々に罪を犯させ[cxxxvi]，その行為によって彼（＝アフレマン）の武器を磨滅させ，全ての者を彼のやり方から救う。

第 7 章：『アヴェスター』の自然学・占星術編②四季との類比で語る現世から復活まで

（55=UI-1: 11）これ（＝人生）は四季に似ている。夏はこの世に似ている。何故か？　何故なら，夏には僅かなもので生きていける。この世でも，望むなら僅かなもので生きていけるのである。

（56=UI-1: 12）秋は死に似ている。何故か？　何故なら，もし冬の食料を持っていたら楽しいだろう。（また，死の時に善行を持っていたら楽しいだろう。）

（57=UI-1: 13）冬はあの世に似ている。何故か？　何故なら，冬の食糧を夏に食糧として蓄えておいたら快いだろうし，善行をしておいたら地獄へ行かずに済むのである。

（58=UI-1: 14）春は復活に似ている。何故か？　何故なら，春には全ての人が幸せである。その理由は，もしも富があったら宮廷まで赴けるだろうし，何もなければみな冬の苦しみがある。復活では，もしも善行があれば報償があるし，もしも罪があれば地獄の責め苦がある[cxxxvii]。

（59=UI-1: 15）また，別の意味では，人間はゲーティーグ界に似ている。何故か？　何故なら，人間はゲーティーグ界のあらゆるものと似たものを持って

---

cxxxvi 意味不明。

cxxxvii 第 58 節は前半と後半が不一致なので，後代の加筆があったのではないだろうか。

いるのである。太陽と月は両目であり，星辰は歯であり，昨日と明日は両耳であり，天圏は回転する舌であり，大地は肉であり，山は骨であり，川は血であり，植物は毛であり，天空は爪である。このように，ゲーティーグ界と人間は語られるのである。

（60=UI-1: 16）オフルマズドとゲーティーグ界については，オフルマズドの中にあるものは，ゲーティーグ界にもあると言われている。あたかも，個人が叡智の世界の凝集であるように，ゲーティーグ界は叡智のオフルマズドの叡智の凝集である。7つの天と7つの大地について，『アヴェスター』にはこう言われている。1つは川，1つは天空，1つは大地，1つは植物，1つは家畜，1つは人間，1つは火。別の7つの天は，1つは風の段階，1つは天圏の段階，1つは星の段階，1つは月の段階，1つは太陽の段階，1つは無限の光の段階，1つは（？）[cxxxviii]。また，人間の肉体にも7つの階層があり，脳，骨，髄，足，肉，皮膚，毛である。

第8章：『アヴェスター』の自然学・占星術編③聖火の種類

（61=UI-1: 17）それら（＝『アヴェスター』の自然学・占星術編）が述べている幾つかの聖火とは，第1は高みにあって何も消尽しないもの。第2は動物の身体にあって全てを消尽するもの。第3は植物の中にあって水を消尽して他は何も消尽しないもの。第4は我々の前にあって水以外の全てを消尽するもの。第5は稲妻と石の火である。

（62=UI-1: 18）また，汝が問うには，復活に際して我々の肉体にある火がある時，それは食料（燃料）なしでどうやって（存続が）可能なのかであった。知られていることには，太陽はあらゆる火よりも熱いのに，食料（燃料）なしだということである。知られていることには，「食べる」とは（肉体の中の）

cxxxviii UI-1ではガロートマーンとされる。

悪魔から食べるのであって，言われているように，人間の肉体には幾らかの悪魔が巣食っているのである。こう問われているのであるが，食料が無ければ，どんな楽しみがあるのか？　こう知らなくてはならない。もし，アーズとニヤーズが無ければ，食事の必要性があるだろうか？　灼熱の悪魔が無ければ，木陰の必要性があるだろうか？　酷寒の悪魔が無ければ，火（の必要性があるだろうか）？　ワラン（性欲の悪魔）が無ければ，女の必要性があるだろうか？　全てはこうである。ある悪魔からの避難所から別の悪魔に行き着いてしまい，悪魔たちはお互いに叩きあい，酷寒の悪魔は灼熱のを叩くのである。楽しみはあの楽しみであり，我々の前にあればあるほど，もっと必要になる。満足したら，必要なくなる。知られているように，食事の欲求は空腹な時に起こる。満腹の時は何も食べられない。満足したら，何も食べようと思わない。多くの食事は全て不快になって逆になる。

（63=UI-1: 19）酷寒の時には全ての衣服を着て火の近くへ行って座るが，度を越すと不快になって逆になる。同様にして，ワランが彼に出た時は女と行うようになるが，度を越すと言うべきでないことになる。

（64=UI-1: 20）ゲーティーグ的な楽しみは全てこうである。不快は行き過ぎ（から生じるの）である。それ故，あればあるほど求めたくなる楽しみを探してしまい，あればあるほど少ない（楽しみ）ではないのである。楽しみとは，汝が神を知り，彼の教えを受け入れ，彼の命令を奉じ，魂を養うことである。

第９章：『アヴェスター』の自然学・占星術編④創造者としての時間

（65=UI-1: 21）以下のように知るべきである。創造主は１人で，彼の教えも１つである。創造主も彼の教えも無効にはならない。（真の）道は１つだが，道ならぬ道は多い。創造主は１人だが，それを求める者は多い。多くの集団が彼を別の方法で呼ぶ。最初に，私はザルトシュト教徒に話を戻そう。彼らは神を偉大で存在すると知り，多くの名前で呼んでいる。創造主については，この

ような真理がある。もしも神と全てのアムシャスプンタたちと全ての世界のものどもがあっても，それはたった1つの時間が存在へと引き出すことができたものたちである。何故なら，ルーズガールによって存在に至るのである。

（66=UI-1: 22）私は以下のような理由でルーズガールと書いた。多くの人は，ルーズガールが時間だと知らないのである。宗教はルーズガールを通して教えられ，教養はルーズガールを通して教えられ，仕事はルーズガールを通して教えられ，黄金と庭園はルーズガールを通して作られ，樹木はルーズガールを通して実をつけ，技術はルーズガールを通して得られ，全てのものの存在はルーズガールを通して可能になる。これが正しい。ルーズガールが無いのに創造者があると言うことは出来ない。もし，誰かがルーズガールは昼と夜のことだと言うなら，昼と夜が無くとも時間はあると知らなくてはならない。

（67=UI-1: 23）アフレマンも，別の集団にはある名前で呼ばれ，悪が彼に由来するとも知られているのだが，時間なしでは何も出来ない。驚くべきは，この計算によって彼（＝アフレマン）が悪の行為者になるという行いだが，彼を悪の行為者と呼ぶのは適当ではない。もっと驚くべきは，悪を行うべしとの命令がなされ，それも汝が行った悪の方である。（最後の一文は意味不明）

第10章：教訓

（68=UI-2: 49）最も驚くべきは，我々が子供を学校へ通わせ，善を教え，悪から引き離すことである。汝が考えている間に，彼らは善よりも先に悪を知るだろう。しかし，善は神の御前で善なのであり，被造物の前でもそうである。悪は創造者の御前で悪なのであり，人間の前でもそうである。人間の中には善と悪があり，ゲーティーグ界にも善と悪があり，天圏にも善と悪があり，メーノーグ界には天国と地獄がある。

（69=UI-2: 50）我々は創造者（＝時間）の創造物であり，全ては彼に回帰するのである。それが必然でないなら，創造者は創造しないだろう。その中に悪が

必要でなく存在している点が謎になるだろう。そうでなければ，我々の叡智では分からないだろう。このようであれば，神の御業は神に回帰するのである。

（70=UI-2: 51）なすべきと言われたことはなさなくてはならないし，命令されたことはしなくてはならない。考えるべきと言われたことは考えるべきだし，考えるべきでないと言われたことは考えるべきではない。言うべきと言われたことは言うべきだし，言うべきでないと言われたことは言うべきではない。食べるべきと言われたものは食べるべきだし，食べるべきでないと言われたものは食べるべきではない。着るべきといわれたものを着るべきだし，着るべきでないと言われたものは着るべきではない。他も同様である。我々の法は，（神への）下僕であることに集中しているのである。

第 11 章：結語

（71=UI-2: 52）清き者たちと道を示す者たちに祝福と賞賛あれ。善であれ。遍満してあれ。『ウラマー・イスラーム』は完了した。

UI-DB の独自エピソード（第 19 節途中に挿入）

彼らは，あの 7 悪魔の中でも極悪の 4 悪魔を捕らえ，恒星天と呼んでいる第 8 天圏にメーノーグ的な縄で縛った。彼らは星辰ワナント[cxxxix]をこの 4 悪魔のために任命し，悪事を不可能にした。残る 3 悪魔のうち，最も不吉である土星を第 7 天に配し，第 6 天であるアーイーンには最善である木星を配した。第 2 悪魔である火星は，最小悪なので第 5 天に配し，天圏の中心である第 4 天には太陽を配し，諸天圏の大王位を彼（＝太陽）に与えた。土星と火星は太陽圏より上にあるが，これは彼らが地上に振りまく害毒と汚染が太陽の熱で浄化され，ほとんど地上に達しなくする為である。彼らは，第 3 天には最小善の金星

cxxxix この単語のみアヴェスター文字表記。

を配した。第3悪魔である水星は，合成的なので第2天に配し，太陽の支配下に置いた。天圏の支配が彼にあるようにするためである。彼は太陽から逃れられないのだが，（彼の）天圏は太陽よりも下にあるので，彼の害毒と汚染は地上に到達してしまう。彼（水星）を合成的と呼ぶのは，彼が悪をなす傾向にあるのだが，太陽の支配下にあるので，望んだほど悪くなれないからである。また，彼の位置は2つの善（金星と月）の真ん中なので，必然的に善と共にある時は善を無し，悪と共にある時は悪をなす。これ故に，彼らは彼（水星）を悪とは呼ばずに合成的と呼ぶ。彼らは，第1天には月を配した。月の天圏の下にも実は天圏があって，彼らはこれをゴーチフル天圏と称する。ヴァキード[cxl]の尾と頭は，この天圏にある。白羊宮，金牛宮，双子宮の支配が経過し，巨蟹宮の支配が始まった時，彼らは世界の天宮図を用意した。彼らは，各星辰を12宮の高尚な場に配し，固定することで理解を容易にしたのである。

5-3.『カーメ・ボフレ教示書からのウラマー・イェ・イスラーム』の思想

5-3-1. 全体構造：翻訳から明らかなように，UI-KBの全体構造は，第5章で述べた『アヴェスター』の全3部の要約になっている。即ち，第2～4章が「第1部：宇宙論編」の，第6～9章が「第3部：自然学・占星術編」の要約に該当する。そして，明示はされていないものの，第10章が「第2部：許可・不許可編」の要約に当たると思われる。これを第1章と第11章で挟み，ゾロアスター教神官とイスラームのウラマーとの問答形式にすることで，『ウラマー・イェ・イスラーム』は成り立っている。

この中で，ミフル・ナルセフが起草したと考えられる5世紀のパフラヴィー語原本は，第2～4章である。何故なら，原題『始原から終末に至るまでの世界の本質と人間の霊魂に関する解説』に相応しいのはこの範囲だからである。

---

cxl　意味不明。文脈からすると龍か蛇の名称と思われる。

ミフル・ナルセフと想定される第 1 の著者は，第 2 ～ 4 章の内容から考えて，確実にズルヴァーン主義者である。それに正体不明の第 2 の著者が第 5 ～ 9 章を書き足して，本書に『アヴェスター』の内容要約の体裁を与えた。これは，第 6 章にイスラームへの言及があることから，7 世紀以降の増補と考えられる。この第 2 の著者も，第 9 章の内容から類推すれば，ズルヴァーン主義者である。そして，第 3 の著者が第 10 章で『アヴェスター』第 2 部の要約も加えた。この第 3 の著者には，特にズルヴァーン主義的要素は見受けられない。これで変則的ながら『アヴェスター』3 部作の要約という構造が整えられた。この最終的なパフラヴィー語原本が 13 世紀にペルシア語訳され，第 1 章と第 11 章でサンドイッチして，題名も『ウラマー・イェ・イスラーム』と改めたのが本書である。この構造と成立過程に関しては，図表 13 を参照。

図表 13：『ウラマー・イェ・イスラーム』の構造と成立過程

第 1 章：ゾロアスター教神官とイスラームのウラマーの問答

第 2 章：創造論
第 3 章：イラン史 ── ミフル・ナルセフが起草した対アルメニア人勅令
第 4 章：終末論 ＝『世界の本質と人間の霊魂に関する解説』

＋

第 5 章：『アヴェスター』全 21 巻の内容紹介
第 6 章：『アヴェスター』の自然学・占星術編①
第 7 章：『アヴェスター』の自然学・占星術編② ── 第 2 の著者による増補
第 8 章：『アヴェスター』の自然学・占星術編③
第 9 章：『アヴェスター』の自然学・占星術編④

＋

第10章：教訓 ── 第 3 の著者による増補

第11章：結語
→ 13 世紀のペルシア語訳者が第 1 章と第11章でサンドイッチし，UI が成立

以下では，本書の中で特にズルヴァーン主義的な要素が強い第2～4章と第9章の内容を，「時間による宇宙創造」，「オフルマズドとアフレマンの闘争」，「人類史」，「終末論」の4つの局面に分けて考察しよう。

5-3-2. 時間による宇宙創造：UI-KBの用語法によれば，「創造者（آفریدکار）」の語は時間とオフルマズドの両方に使われる。「時間」を創造者と呼ぶ理由は，火と水を創造し，それらを混合させてオフルマズドを創造したからである[10]。オフルマズドは決して「1,000年間の犠牲祭」の果てに生みだされた訳ではない[11]。また，「時間」は，類似の何らかの方法でアフレマンも創造する。UI-KBでは，アフレマンは「時間」の「祭儀に対する疑念」から生まれた訳でも，何らかの過失から生まれた訳でもない[12]。両者は共通の「子宮」から生まれてもいない[13]。第23～24節にも述べられているように，アフレマンは全くオフルマズドと同等の権利を持ってズルヴァーンから自然発生（？）している。

オフルマズドを創造者と呼ぶ理由は，天圏とメーノーグ的存在者を創造し，更に「長期支配の時間」12,000年の最初の3,000年間に人間を含むゲーティーグ界の諸存在者を創造するからである。「長期支配の時間」が12,000年に限定されているのは，黄道十二宮に各1,000年の支配を委ねる為と考えられる[14]。また，ゼーナーは天圏は空間の神ヴァーイの1類型であり，これが時間の神ズルヴァーンに吸収されることで，時空を統合するズルヴァーンを崇拝する教義が成立したと論じた[15]。しかし，UI-KBでは，天圏はオフルマズドに創造された後で「長期支配の時間」に入れ込まれ，最初は善の創造を保護するカプセルとして機能し，次には善悪が混合する場を提供するに過ぎない。少なくともUI-KBでは，時間の神格と空間の神格が統合した痕跡を見ることはできない。

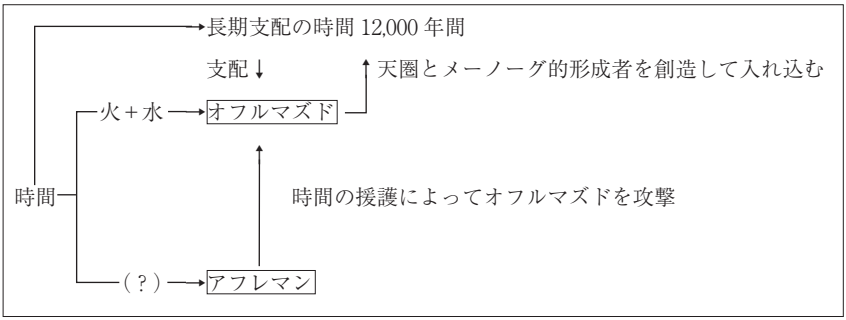
UI-KBでの「時間（زمان）」は，オフルマズドとアフレマンのどちらにも支配権を与えてはいない。特にオフルマズドを優遇してバルソムの枝を与えたと

は描かれていない[16]。オフルマズドに対しては，天圏とメーノーグ的存在者を創造するのを援護し，且つ闘争の舞台である「長期支配の時間」として現れ，天圏とメーノーグ的存在者を包み込んでいる。他方，アフレマンにも，9,000 年間の支配を保証してはいない[17]。アフレマンに対しては，彼が最初にオフルマズドの攻撃に向かう際に援護している。善悪に平等に加担する点で，「時間」は「運命」でも「幸運」でも「正義」でもない[18]。何がしたいのか良く分からないが，両者の闘争を煽っている得体の知れない存在であるのは確かである。

このように，UI-KB で描かれた「時間」は，ゼーナーが言う「善悪二つの神格を止揚するために考案された高次の唯一神」としては捉えきれない側面を持つ。セム的一神教の唯一神と言うよりは，冷たく無機的で善悪両方に加担する何者かである。また，ゼーナーが主張するように『イラン版ブンダヒシュン』がズルヴァーン主義の痕跡を伝える主要な文献だとすると[19]，UI-KB の宇宙創造の記述とは余りにも齟齬が目立つ。ゼーナーの仮説は，再検討した方が良いのではないだろうか。

以上を図示すると，図表 14 が得られる。

図表 14：時間による宇宙構造



5-3-3. オフルマズドとアフレマンの闘争：次に宇宙創造後には，オフルマズドとアフレマンの闘争が来る。オフルマズドは「長期支配の時間」以前に，自分の軍団＝メーノーグ的存在者を創造していた。これらは，『イラン版ブンダヒシュン』とのパラレル性から考えれば，6大アムシャスプンタ（ワフマン，アルドワヒシュト，シャフレーワル，スパンダルマド，フルダード，アムルダード）を指す。或いは，マーニー教で言う「オフルマズドの5つの光の戦闘服」に該当するかも知れない。

これに続き，オフルマズドは最初の3,000年間にゲーティーグ界の諸存在者（天空，水，大地，植物，牛とカユーマルス，アダムとイヴ）を創造する。『イラン版ブンダヒシュン』では天空，水，山，植物，牛，ガヨーマルトの順に創造されることになっているから[20]，セム的一神教に由来するアダムとイヴは後代の書写生の加筆と分かる。

他方，一旦地獄へ逃げ戻ったアフレマンも自分自身の軍団を形成した。第25節で言及されている「最悪の7悪魔」ゼーリジュ，タルフ，ナーンギーシュ，タルマド，ヘシュム，セビーフ，ビーズが，おそらくそれに当たる。しかし，ここに挙げられた悪魔の名前は，『イラン版ブンダヒシュン』で挙げられている「6大悪魔」アコーマン，インダル，サーウル，ナーンハイス，タリチュ，ゼーリチュとは部分的にしか重ならない[21]。タルマド，セビーフ，ビーズなどが何に由来するのかは，原始ゾロアスター教や『アヴェスター』との関連で解明されなくてはならないが，それは筆者の能力を超える。ともかくアフレマンは彼らを率い，またしても時間の援護を受けて世界に穴を穿ち，そこから侵入してゲーティーグ界の諸存在者を悪で汚染する。こうして善と悪の混合－闘争ではない－が始まった。

しかし，アフレマンはメーノーグ的（霊魂的）な悪を創造していなかった為に，オフルマズドが創造したメーノーグ的存在者たちにあっさりと捕まり，そのまま地獄に捕囚される。二元論的教義に親しんだ眼には意外なことに，ズル

ヴァーン主義では善悪の闘争は人間の歴史が始まる以前に決着が付いているのである。後に残された課題は，アフレマンに汚染されたゲーティーグ的（物質的）存在者たちをどうやって分離・浄化するかであった。

この局面で注目すべき論点は 2 つある。第 1 に，二元論的ゾロアスター教ではメーノーグ界とゲーティーグ界の両方でオフルマズドとアフレマンの創造物が争うとされ，精神と肉体の対立を説くマーニー教と対比されてきた。しかし，UI-KB に示されたズルヴァーン主義では，オフルマズドがメーノーグ界とゲーティーグ界の両方の創造を担うのに対し，アフレマンはゲーティーグ界でしか創造を行わない。これは大変な相違であり，ゼーナーの「イラン版ブンダヒシュン第 1 章とウラマー・イェ・イスラームの創造論は一致している」[22]との仮説は成立の余地がない。寧ろ，ズルヴァーン主義の善悪闘争論は二元論的ゾロアスター教とは相違しており，マーニー教の霊肉二元論の萌芽的な思想形態をこのズルヴァーン主義に想定した方が良いのではないだろうか。

第 2 に，二元論的ゾロアスター教ではオフルマズドとアフレマンは終末の日まで争い，メーノーグ界とゲーティーグ界の両方の次元での善悪の闘争が人類史のメインテーマとされる。これに対して UI-KB に示されたズルヴァーン主義では，善悪の闘争は人類史が開始する以前に決着が付き，以後は善悪の混合を（オフルマズドの視点から言えば）浄化する方に重点が置かれる。この点でも UI-KB で説かれたズルヴァーン主義は，二元論的ゾロアスター教よりも，霊魂の肉体からの浄化を説くマーニー教に近い思想構造を示している。

以上を図示すると，次頁の図表 15 が得られる。

5-3-4. 人類史：「長期支配の時間」の第 3 の 3,000 年間にやっと人類の歴史が始まる。ここでは UI-KB の人間理解が問題となる。二元論的ゾロアスター教では，人間は自主的な選択によって善を選んだ後は，悪の要素を微塵も含まない善の戦士としてオフルマズドと共に闘うとされる。しかし，UI-KB では，

図表 15：オフルマズドとアフレマンの闘争

「長期支配の時間」の最初の 3,000 年間（白羊宮，金牛宮，双子宮）

オフルマズド＝「長期支配の時間」を主とし，天圏とメーノーグ的存在者を創造。更に，ゲーティーグ的存在者として天空，水，大地，植物，牛，カユーマルス，アダムとイヴを創造。

アフレマン＝時間の援護でオフルマズドを攻撃しようとするが，オフルマズドの軍団に圧倒されて地獄へ戻って雌伏する。

「長期支配の時間」の第 2 の 3,000 年間（巨蟹宮，獅子宮，乙女宮）

オフルマズド＝人間や動植物の創造を完了→アフレマンによってゲーティーグ的な存在はすっかり汚染される→メーノーグ的存在者たちがアフレマンを捕まえ，地獄に封印する→ 7 悪魔を見張る為に，7 惑星が誕生した

アフレマン＝時間の援護を受けて，世界に穴をあけて侵入→ゲーティーグ界で暴れまわって汚染する→しかし，メーノーグ的な軍団を持っていないので，メーノーグ的存在者たちに捕まり，地獄で捕囚される

人間はアフレマンが撒き散らす欲望・憤怒などの悪魔と混合し，善と悪の両方の要素を宿すことになっている。これまた二元論的ゾロアスター教よりは，人間を善悪の混合体と捉える思想構造の点で，霊魂の肉体への捕囚を説くマーニー教に近い発想である。

同時に，UI-KB に書いていないことも重要である。ゼーナーによれば，ズルヴァーン主義の人間理解ではアーズ（二元論的なパフラヴィー語文献では性欲の女悪魔とされる）が決定的に重要な役割を果たし，ズルヴァーン主義独特の禁欲的で女嫌いの人間像を形成しているとされる[23]。しかし，UI-KB ではアーズは第 62 節にしか登場せず，しかもそれは食欲を促す悪魔としてであって，ズルヴァーン主義の人間理解全体に影響を与えるほどの役割は果たしていない。UI-KB に於ける性欲の悪魔は、ワランである。

これ以降の人類史の展開に関しては，UI-KB の思想と二元論的ゾロアスター

教との間に明確な区別はない。以上を図示すると，図表 16 が得られる。

図表 16：人類史

「長期支配の時間」の第 3 の 3,000 年間

- この段階で天圏が回転し，太陽と星辰が出没し，昼と夜が生まれる
- 人間は本性上は 4 元素と霊魂・知性・フラワフル等からなるオフルマズド的な存在だが，アフレマンに汚されて欲望や憤怒などの悪魔的性質も併せ持つ
- ジャムシード→ダハーク→フェリードゥーン→アフラースィヤーブと統治
- ザルトシュトが預言者となり，『アヴェスターとザンド』を齎し，グシュタースプ・シャーを初め世界の 1 ／ 4 がゾロアスター教を受容
- アレクサンダー→アルダシール・バーバガーン（サーサーン王朝）→アラブ人→バフラーム・ハマーヴァンドが統治
- ウシェーダル・バーミーが現れ，世界の 3 ／ 4 × 1 ／ 3 がゾロアスター教を受容
- ウシェーダル・マーフが現れ，世界の 3 ／ 4 × 1 ／ 3 がゾロアスター教を受容
- ソーシャーンスが現れ，世界の 3 ／ 4 × 1 ／ 3 がゾロアスター教を受容

5-3-5. 終末論：最後に UI-KB では，二元論的ゾロアスター教とは大幅に異なる終末論が語られている。大魔王アフレマンは人類史以前にメーノーグ的存在者たちが地獄で捕囚しているから，もはや終末論的課題ではない。従って，「長期支配の時間」がアフレマンの最終的破滅を担保しているとのゼーナー説[24]は，UI-KB の構造の中では通用しない。単に「長期支配の時間」の満了が世界の終末を意味するだけである。

また，ゼーナーはズルヴァーンを死の神であると推論しているものの[25]，UI-KB では個人の死は四元素への分解として語られるのみで，特に「時間」が介在しているようには見受けられない。確かに時間一般の属性として死を不可避的に齎す作用があるかも知れないが，ズルヴァーン主義の思想構造の中で両者を特別に結び付けるような契機は見出せない。

UI-KB の終末論の中で問題とされるのは，ゼーナーが主張するような「時間の運命論的作用」ではない。差し迫った課題は，アフレマンが汚染したゲーティーグ界の悪をどう浄化するかである。UI-KB によれば，人間は霊魂の上では善であるが，汚染されてしまった肉体は悪であり，悪と共に死ぬことで却って悪を滅ぼす存在と理解される。このような意味で，人間は「善の戦士」と呼ばれる資格がある。いわば，人間は悪と心中する為に生れ，究極的には死ぬことに意義がある存在なのである。ただ，これでは余りにもペシミスティックで，アルメニア人がゾロアスター教に改宗しそうにないから，ミフル・ナルセフは最後に「オフルマズドは最終的には人間を復活させ，永遠の慰謝を与える」と付言している。

この思想はフラショギルドという世界の終末を想定しない点では，二元論的ゾロアスター教ともマーニー教とも異質である。しかし，人間は死ぬことで宇宙史に貢献するという人間理解の点では，死を悪への最大の敗北と受け取る二元論的ゾロアスター教と真っ向から対立する。ここでも，死を歓迎する姿勢の上では，UI-KB はマーニー教との親和性を示している。

以上を図示すると，図表 17 が得られる。

図表 17：終末論

人間＝地水火風の 4 元素と霊魂・知性・芳香で成立

↓　　↓

この部分は悪である肉体　この部分はフラワフルと一体化

↓　　↓

元の地水火風に戻る　　生前の善悪に応じて，天国・煉獄・地獄のどれかに赴く

↓

悪である肉体と共に滅ぶことで，人間は宇宙の浄化に貢献＝人間の意義

↓

オフルマズドには，悪の最終的滅却に貢献した人間を復活させる義務がある

以上，UI-KB の校訂から判明した 3 ～ 5 世紀のゾロアスター教ズルヴァーン主義は，ゼーナーが想定していた「ズルヴァーン主義」とは全く別の思想である。そして，6 ～ 10 世紀の二元論的ゾロアスター教とも異なる思想構造を備えており，寧ろマーニー教との共通点が多いことが判明した。以上から得られたゾロアスター教ズルヴァーン主義，マーニー教，二元論的ゾロアスター教の比較を図示すると，暫定的な結論として図表 18 が得られる。

図表18：ゾロアスター教ズルヴァーン主義，マーニー教，二元論的ゾロアスター教の比較

	3 ～ 5 世紀のゾロアスター教ズルヴァーン主義	3 世紀のマーニー教	6 ～ 9 世紀の二元論的ゾロアスター教
最高神	時間の神ズルヴァーン	偉大なる父ズルヴァーンと暗黒の王アフレマン	善神オフルマズドと悪神アフレマン
宇宙論	ズルヴァーンから，自然発生的にアフレマンとオフルマズドが誕生し，前者が後者に挑む	アフレマンがズルヴァーンの王国へ侵入。ズルヴァーンは最初の人間オフルマズドを派遣して対抗	アフレマンがオフルマズドの王国へ侵入
神々	アマフラスパンドたちがオフルマズドに助力。アフレマンも「最悪の 7 悪魔」で対抗	オフルマズドとアマフラスパンドたちは敗北し，ミフル神が主力になる	アマフラスパンドたちやミフル神がオフルマズドに助力
二元論	善は精神界（メーノーグ）と物質界（ゲーティーグ）の両方に宿るが，悪は物質界に限定される	光は精神を代表し，闇は物質を代表する	善と悪が精神界（メーノーグ）と物質界（ゲーティーグ）の両方で対峙
人間論	善神に創造されたが，悪魔と共に死ぬことで，悪魔を滅却する悲劇的存在	転落した光の要素を捕囚する為に悪魔が創造した呪われた存在	悪との闘争のために善神が創造し，最終的に勝利する存在
使徒論	ザラスシュトラが聖呪を伝えて悪魔に対抗	ザラスシュトラを含む使徒多数。マーニーが最終預言者	ザラスシュトラが聖呪を伝えて悪魔に対抗
倫理	聖呪を唱えて聖火を拝む。善の勢力を増す為に子孫を繁栄させる	殺生・暴力・肉食・性交などを禁止し，禁欲主義を推奨する	聖呪を唱えて聖火を拝む。善の勢力を増す為に子孫を繁栄させる
終末論	善悪の闘争は，人類史以前に決着が付いている。人間が悪の要素と心中して世界を浄化し，最終的な復活がある	ズルヴァーンが光の要素の大部分を回収し，宇宙は崩壊，人類は死滅する	善が悪を圧倒して封印。宇宙と人間は至福に包まれる

紙数の関係で，これに続く

6. 『ウラマー・イェ・イスラーム』（UI-1）の校訂と翻訳と思想
7. 『別版ウラマー・イェ・イスラーム』（UI-2）の校訂と翻訳と思想
8. 5 ～ 8 世紀のアルメニア語・シリア語外部資料との比較
9. 12 世紀のアラビア語外部資料との比較
10. 新校訂から明らかになったズルヴァーン主義の全体像

の 5 点については，稿を改めて発表する予定である。

参考文献表

写本

イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 86908 コーデックス

イラン・イスラーム共和国議会図書館所蔵 Majles 87947 コーデックス

ムンバイ大学ラージャバイ時計台図書館所蔵 BUL Vol. LI コーデックス

K. R. カーマ東洋研究所内モッラー・フェーローズ図書館所蔵 B-VIII-3 コーデックス

メヘルジー・ラーナー図書館所蔵 T-35 コーデックス

サーラール・ジャング図書館所蔵 Persian 3493 コーデックス

スーラト中央ナルマド図書館所蔵クータル神官旧蔵ペルシア語写本 8 冊（写本番号なし）

写本カタログ

Ashraf, Hāji Muhammad (ed.) 1983: *A Concise Descriptive Catalogue of the Persian Manuscripts in the Salar Jung Museum and Library*, vol. 8, Hyderabad, 1983

Dhabhar, E. B. N. 1923a: *The K. R. Cama Oriental Institute Catalogue*, Bombay.

——— 1923b: *Descriptive Catalogue of Some Manuscripts bearing on Zoroastrianism and pertaining to the Different Collections in the Mulla Feroze Library*, Bombay.

——— 1923c: *Descriptive Catalogue of all Manuscripts in the First Dastur Meherji Rana Library*, Navsari, Bombay.

Hā'erī, 'Abd al-Hoseyn et als. (eds) 1305-1377AH: *Fehrest-e Noskhe-hā-ye Khattī-ye Ketābkhāne-ye Majles Showrā-ye Eslāmī*, vol. 37, Tehrān.

Katrak, Jamshed Cawasji 1941: *Oriental Treasures being condensed Tabular Descriptive Statement of over a thousand Manuscripts and of their Colophons written in Iranian and Indian Languages and lying in private libraries of Parsis in different Centres of Gujarat*, Bombay.

Kotwal, Dastur Dr. Firoze, Daniel Sheffield and Bharti Gandhi (eds.) 2008: *Preliminary Descriptive List of Manuscripts Donated to the First Dastur Meherjirana Library since 1923*, Navsari.

Sarfarāz, Khān Bahādur Shaikh 'Abdu'l-Kādir-e 1935: *A Descriptive Catalogue of the Arabic, Persian and Urdu Manuscripts in the Library of the University of Bombay*, Bombay.

刊本

Azkā'ī, P. 1369Sh = 1990: "Resāle-ye Zorvānī 'Olamā-ye Eslām," *Cheste*, No. 3, pp. 341-357.（1376Sh = 1997: "Resāle-ye Zorvānī 'Olamā-ye Eslām," *Mīrāth-e Eslāmī-ye Īrān*, No. 4, pp. ٥٨١-٦٠٠ に再録）

Olshausen, Justus 1829: *Fragmens rélatifs à la Religion de Zoroastre extraits des manuscripts Persan de la Bibliothèque du roi*, Paris.

——— 1831: *Fragmente über die Religion des Zoroaster: aus dem Persischen übersetzt und mit einem ausführlichen Commentar versehen*, Bonn.

Unvâlâ, Ervad Manockji Rustamji 1922: *Dârâb Hormazyâr's Rivâyat*, 2vols, Bombay.

翻訳・研究書

Adhami, Siamak 2006: "'Olamā-ye Eslām," *Encyclopaedia Iranica*, ed. by E. Yarshater,(http://www.iranica.com/newsite/articles/unicode/ot grp10/ot olamaeslam_20060321.html)

Blochet, M. 1898: "Le livre intitulé l'Oulamâ-i Islâm," *Revue de l'Histoire des Religions*, Vol. 37 (No. 1), pp. 23-49.

Dabestān-e Mazdayasnī 1907: Bombay（筆者は未見）

Dhabhar, E. B. N. 1932: *The Persian Rivayats of Hormazyar Framarz*, Bombay (reprint, 1999).

Gimaret, D. et G. Monnot (trs.) 1986: *Livre des religions et des sects*, Vol. 1, Paris.

Kutar, M. N. 1928-29: *Navsari Navar ane Nirangdinni Fehrest*, 2vols, Navsari.

Moqaddam, M. J. 1993: *Ā'īn-e Zorvānī: Maktab-e Falsafī-'Erfānī bar Mabnā-ye Asālat-e Zamān*, Tehrān.

Shahrastānī, Abū al-Fath Ibn 'Abd al-Karīm al- 1366-1375 AH: *Kitāb al-Milal wa al-Nihal*, ed. by Muhammad Fath Allah Badran, 2 vols. Cairo

Spiegel, Fr. 1860: *Die traditionelle Literatur der Parsen in ihrem zusammenhange mit den angränzenden Literaturen*, Wien.

Vullers, J. A. 1831: *Fragment über die Religion des Zoroaster*, Bonn.

Wilson, J. 1843: *Parsi Religion as contained in the Zand-Avestá, and propounded and defended by the Zoroastrians in India and Persia, unfolded, refuted, and contrasted with Christianityá*, Bombay.

Zaehner, R. C. 1955: *Zurvan: a Zoroastrian Dilemma*, Oxford.

――― 1961: *The Dawn and Twilight of Zoroastrianism*, London.

青木　健　2011 年：「ミトラ教ペルシア語文献研究 1 ～『シャープール・バルーチーのミトラ教についての書簡』の写本蒐集と校訂翻訳～」，『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，第 42 号（2011 年 3 月刊行予定）。

後藤敏文　2006 年：「古代インドイランの宗教から見た一神教」，『一神教の学際的研究』，同志社大学 21 世紀 COE プログラム，pp. 86-111。

――― 2008 年：「インドのことばとヨーロッパのことば」，『ことばの世界とその魅力』，阿子島香（編），東北大学出版会，pp. 117-163。

謝辞

本稿成立に当たっては，文中で言及した方々の他にも，草稿を閲読して有益なコメントを下さった慶應義塾大学言語文化研究所の野元晋教授，毎日のように訪れた東京大学東洋文化研究所図書室の司書の皆さま，インドとイランでの写本調査に協力して写本を探して下さった森下信子氏（東京大学大学院・博士課程）のご協力を得ました。篤くお礼を申し上げます。もちろん，本稿がこのような形で完成した責任は筆者のみにあります。

1　後藤　2008 年，pp. 130-131 の推定による。

2　後藤　2006 年，p. 86 参照。

3　ゼーナーに従えば，3 世紀のシャーブフル 1 世と 5 世紀のヤズデギルド 2 世の時代がズルヴァーン主義の全盛期で，6 世紀のホスロー 1 世時代に二元論的ゾロアスター教が逆転して優位を占めたとされる。Zaehner 1955, pp. 51-52 参照。

4　ついでながら，『ブンダヒシュン』にも信頼できる校訂版がないのは周知の事実である。

5　サーサーン王朝 7 大貴族の 1 つイスファンディヤール家の出身で，ヤザドギルド 1 世とバフラーム 5 世に仕えて大宰相（ウズルグ・フラマダール）となった。長男にズルヴァーンダードと命名しているので，ズルヴァーン主義的な思想の持ち主と

推定されている。

6　例えば，トゥルファン出土のマーニー教パルティア語文献では最高神はバグと称するのに対し，中世ペルシア語文献では最高神はズルヴァーンと称する。Zaehner 1955, p. 30 参照。

7　①ズルヴァーン主義の禁欲主義とインドの禁欲主義の関連性，②無量寿如来の原形がズルヴァーンである可能性などが指摘されている。逆に，ズルヴァーン主義が仏教思想の影響を受けて女悪魔アーズを形成したとの推測もなされている。Zaehner 1961, p. 229-230 参照。

8　この写本の略称をウーンワーラー神官の刊本と混同している先行研究があるので，注意が必要である。Unvâlâ 1922 の解説でモーディー神官がいう MU とはダーラーブ神官の最後の autograph である Codex MU を指し，Dhabhar 1932 でダーバル神官がいう MU とはマーノクジー・ウーンワーラー神官の刊本 Unvâlâ 1922 を指す。

9　Majles 86907 コーデックスの分析については，青木　2011 年を参照。

10　ゼーナーは，『ブンダヒシュン』や『アードゥル・ホルムズの行伝』を根拠に，「（火と水には）明らかに性差がある」と述べ，火を光の男性原理，水を闇の女性原理としている。しかも，このような区別はパフラヴィー語文献に見当たらないので，この「ズルヴァーン主義の第2形態」はイラン起源ではないと推定している。Zaehner 1955, pp. 73-78 参照。しかし，考察の範囲を UI-KB に限定すれば，この記述にそこまでの含意があるようには見えない。原文に従えば，「（両者を）混ぜた」だけである。また，外部資料の方を重視して，唯一の内部資料の記述を「イラン起源ではない」と断定してしまうのは，結論を急ぎ過ぎかも知れない。

11　ゼーナーは，「資料の全てが，『ズルヴァーンは1,000年間の犠牲祭をした』と述べている」と指摘している。Zaehner 1955, p. 55 参照。しかし，このような事実は UI-KB には出てこない。先回りすれば，後述の UI-1，UI-2 のどの写本にも出てこない。外部資料だけに依拠した立論である。

12　ゼーナーによれば，2つのアルメニア語資料と2つのシリア語資料は，「アフレマンはズルヴァーンの祭儀の効果に対する疑念から偶発的に生まれた」と述べている。Zaehner 1955, p. 60 参照。

13　ゼーナーによれば，エズニクと2つのシリア語資料は，「オフルマズドとアフレマンは共通の子宮から生まれた」と述べている。これに対して，エリシェーはミフル・ナルセフの勅令に対する反論として，「アフレマンとオフルマズドは母からではなく父（＝時間）から生まれた」と述べているとされる。Zaehner 1955, p. 62 参

照。エリシェー情報は 1 系統しかないので軽視され，ゼーナーはズルヴァーン主義には時間と並ぶ女性的原理があったと仮定した。Zaehner 1955, p. 64 参照。しかし，エリシェーと UI-KB が一致している以上，これは孤立した情報ではなく，却ってこちらの方がミフル・ナルセフの勅令に近い伝承を示している可能性が高い。

14　Zaehenr 1955, pp. 96-97 参照。

15　Zaehner 1955, pp. 87-91 参照。

16　ゼーナーによれば，ズルヴァーンは終始オフルマズドを贔屓にして，これに支配権の象徴であるバルソムの枝を与えたとされる。Zaehner 1955, p. 66 参照。

17　ゼーナーによれば，エズニクとテオドル・バル・コーナイは「ズルヴァーンがアフレマンに 9,000 年間の支配権を承認せざるを得なかった」と伝えている。Zaehner 1955, p. 69 参照。

18　ゼーナーによれば，エズニクやテオドル・アブー・クッラはズルヴァーンを「運命」,「幸運」,「正義」と同一視している。Zaehner 1955, pp. 57-59 参照。

19　ゼーナーのズルヴァーン主義研究の基礎的主張の一つ。Zaehner 1955, pp. 105ff. 参照。

20　Zaehner 1955, p. 136 参照。

21　Zaehner 1955, p. 135 参照。

22　Zaehner 1955, p. 135 参照。

23　Zaehner 1955, pp. 182-183 参照。

24　Zaehner 1955, p. 107 参照。

25　Zaehner 1955, pp. 240-242 参照。

A Study on Zurvanite Zoroastrianism 1: Collecting and Editing MSS of '*Ulamā-ye Islām* and its Comparison with Manichaeism and Dualistic Zoroastrianism

Takeshi AOKI

The Persian treatise, '*Ulamā-ye Islām*, whose origin is supposed to be the Pahlavi Edict by the Sasanian Prime Minister Mihr Narseh (5th CE) to force Armenian Christians to convert to Zoroastrianism at that time, i.e. Zurvanism, is the only surviving work from a Zurvanite point of view. Although the Persian text has been published in lithograph or print form since the 1820s, no critical editions exist thus far. To address this situation, I have collected independent MSS of that treatise both already known in Mumbai (3) and Navsari (1) and unknown in Tehran (2) and Hyderabad (1), and I have prepared the stemma codicum of '*Ulamā-ye Islām* and established an Urtext that could account for the variants.

This process generated a number of findings, not confined to detailed textual issues, but including religious history. The Zurvanite thought expressed in this Urtext is quite resemblant of Manichaeism in its Cosmology, Anthropology and Eschatology, rather than Dualistic Zoroastrianism in Pahlavi Books written between the 9th and 10th centuries. If Zurvanism is allowed to speak for itself, it can tell us a great deal about the Religionsgeschichte in Early Sasanian Persia which focuses on Zurvanism's unexpected but great influence on Manichaeism in historical context.